KENWOOD

オーディオ ビデオ サラウンドレシーバー

KRF-X9090D

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation

付属のリモコンについて

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードを持っています。
リモコンを有効に使用するためにもこの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたなどをよくご理解の上でご使用ください。
リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたを知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

6CH INPUT

B60-5562-00 00 (CS) (J) OC 0504

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用の前に必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

警告

交流100ボルトの電圧で使用する

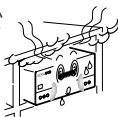
この機器は、交流100ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

船舶などの直流(DC)電源には接続しない

火災の原因となります。

通風孔をふさがない

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。
- 風通しの悪い狭い所で使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災・感電の原因となります。

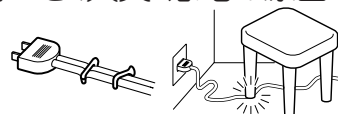
水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

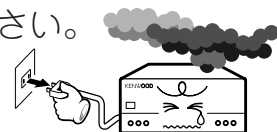
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら(芯線の露出、断線など)販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

⚠ 警告

電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない

水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置く

電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない

電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

⚠ 注意

カセットテープ、ディスク挿入口に手を入れない

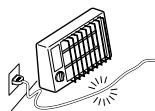
手がはさまれて、けがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

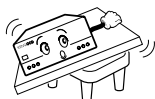
レーザー光源をのぞき込まない

レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

注意

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

アンテナ工事は販売店に相談する

工事には、技術と経験が必要です。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。
電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災の原因となることがあります。

移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、接続コードを外す。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

注意

機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

電池の取り扱いに注意する

次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"-"の向き)に注意し、表示どおりに入れる。
- 指定の電池を使用する。
- 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。

電池は誤った使い方をすると、破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。

液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

定期的に内部の点検、清掃をする

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

はじめに

取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、操作編、リモコン操作編、その他、の4つの章に分かれています。

準備編
安全上のご注意、お手持ちのオーディオおよびビデオ機器との接続のしかたや、サラウンド設定などの準備のしかたを説明しています。
まずはじめに安全上のご注意をよくお読みください。またお手持ちのオーディオやビデオ機器によっては、接続がとても複雑になることがありますので、取扱説明書をよくお読みのうえ、接続してください。

操作編
本機で使用できる各種機能の操作方法を説明しています。

リモコン操作編
他の機種をリモコンで操作するための方法を説明しています。各種の設定、登録を済ませておくと、本機とお手持ちのAV機器（テレビやビデオ、DVDプレーヤー、CDプレーヤー等）が、本機に付属のリモコンだけで操作できるようになります。

その他
「故障かな？と思ったら」、「定格」などを示してあります。

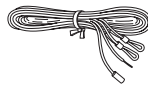
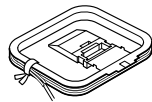
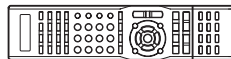
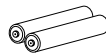
セットのお手入れ
前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

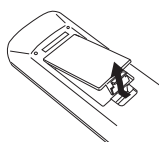
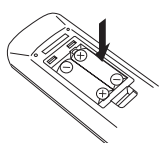
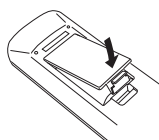
接点復活剤について
接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

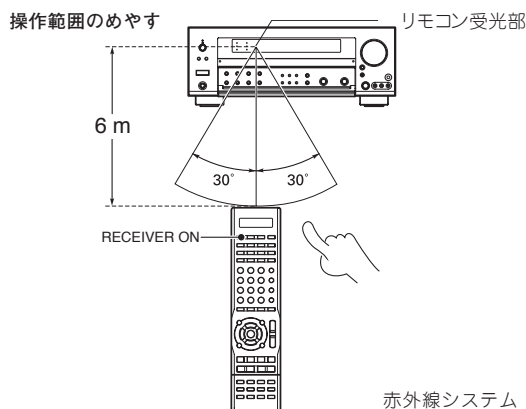
ステレオ音のエチケット
楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

FM 室内アンテナ（1本）

AM ループアンテナ（1個）

リモコン（1個）
（RC-R0918）

リモコン用単4乾電池(2本)

セットアップ用マイク
（コード長約5m：1個）

リモコンの準備

操作のしかた

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンの**RECEIVER ON**キーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

- リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

ご注意
1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り換えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式など）の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

本機の特長

多彩なホームシアター機能

→37

本機には、ご家庭で映像ソフトやオーディオソースを十分に楽しんでいただくために多彩なリッスンモードを用意しています。お手持ちの機器や、再生する映像ソフトに合わせてモードを選び、お楽しみください。

- THX Select2 Cinema
- THX MusicMode
- THX Games
- THX Surround EX
- Dolby Digital EX
- Dolby Pro Logic IIx
- Dolby Digital
- Dolby Virtual Speaker
- Dolby Headphone
- DTS-ES
- DTS Neo:6
- DTS 96/24
- DTS
- AAC
- DSPモード

Auto Room EQ

→24

従来のマニュアル設定で難しかったさまざまな調整をすることなく、付属のセットアップ用マイクを使うことにより、自動でスピーカーシステムの能力や配置、リスニングルームの音響特性に応じたセッティングを正確におこない、最適な視聴環境を提供します。

ACTIVE EQ

→32

ACTIVE EQモードは再生音をより迫力のあるものにします。ACTIVE EQモードによりどのような条件においてもより印象的な音響効果を楽しむことができます。

ゲームモード機能

→31

本体前面の**GAME**端子にゲーム機器を接続すると、自動的にインプットセレクターが**"GAME"**に切り換わり、ゲームを楽しむのに最適な音場に設定されます。
ゲームをより便利にお楽しみいただけます。

赤外線リモコン

リモコンで働くほとんどのオーディオ、ビデオ機器を本機のリモコンで操作できます。接続した機器を簡単な手順で登録することができます。

ビデオアップコンバージョン

本機では、入力されたコンポジットビデオ信号をSビデオ信号に変換して出力します。お使いのモニターテレビにSビデオ端子がある場合は、本機とモニターテレビをSビデオ接続ケーブルで接続していただくと、コンポジットビデオ端子を接続する必要がありません。

目次

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

各部のなまえと働き

メインユニット

❶ **POWER ON/OFF キー** → 23
主電源のオン/オフを切り換えます。

❷ **⏻（オン/スタンバイ）キー** → 23
主電源がオンのとき、本機の電源のオン/スタンバイを切り換えます。
スタンバイ 表示

❸ **SPEAKERS キー** → 31
スピーカーのA/Bを切り換えます。

❹ **THX インジケータ** → 40
THXモードが選ばれたときに点灯します。
96kHz fs インジケータ → 45
96kHzリニアPCMの信号を入力しているときに点灯します。
ACTIVE EQ インジケータ → 32
ACTIVE EQモードのときに点灯します。
DOLBY DIGITAL インジケータ → 40
ドルビーデジタル信号を入力しているときに点灯します。
DTS インジケータ → 41
DTS信号を入力しているときに点灯します。
AAC インジケータ → 41
AAC信号を入力しているときに点灯します。

❺ **INPUT SELECTORキー** → 31
入力ソースを選択します。

❻ **VOLUME CONTROL つまみ** → 31

❼ **SETUP MIC 端子** → 23
付属のセットアップ用マイクを接続します。

❽ **PHONES 端子** → 33
ヘッドホンで聴くときに使います。

❾ **THX キー** → 40
THXの状態を切り換えるときに使います。
DOLBY VIRTUAL キー → 42
Dolby Virtual SpeakerとDolby Headphoneの設定をするときに使います。
STEREO キー → 42
リッスンモードを一時的にステレオに切り換えるときに使います。
INPUT MODE キー → 12
インプットモードの設定に使います。
BASS BOOST キー → 33
低音域を調節できる最大値に設定します。
DSP キー → 42
DSPモードを選択するときに使います。
ACTIVE EQ キー → 32
ACTIVE EQの設定をするときに使います。
DIMMER キー
ディスプレイの明るさを調節します。→ 45
録音モードをかえます。→ 34

❿ **SOUND キー** → 43
音質や音場を調節したいときに使います。
TONE キー → 33
トーンを調節するときに使います。
BAND キー → 35
放送バンドを切り換えます。
AUTO/MONO キー → 35
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。

⓫ **SETUP キー** → 23
スピーカーの設定などをするときに使います。
MEMORY/ENTER キー
放送局を登録するときに使います。→ 35
選択の決定に使います。

⓬ **▲/▼ キー** → 23
サウンド、セットアップまたはプリセットチャンネル機能を調節するときに使います。

⓭ **MULTI CONTROL つまみ**
いろいろな設定に使います。

⓮ **LISTEN MODE つまみ** → 40
リッスンモードを選ぶときに使います。

⓯ **AV AUX/GAME キー** → 22 → 31
AV AUXへ入力を切り換えるときに使います。

⓰ **AV AUX（S VIDEO、VIDEO、L-AUDIO-R）端子** → 22

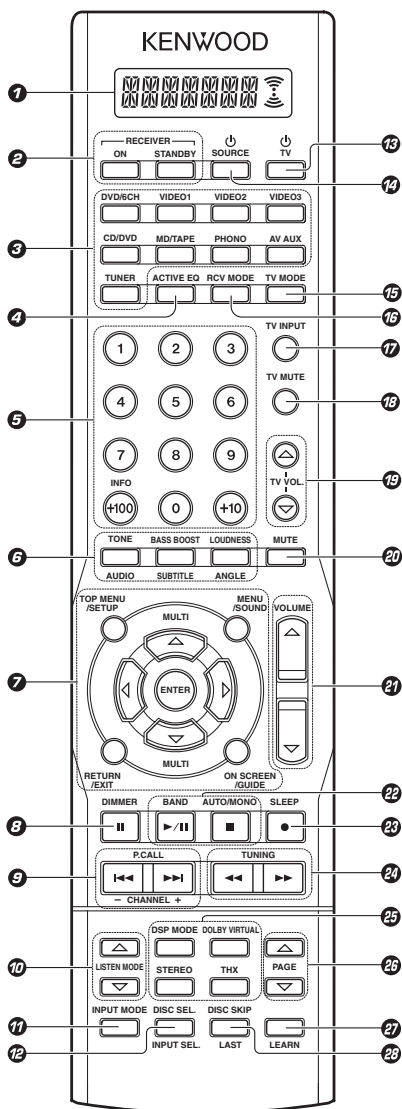
スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンにできます。

注意

電源スイッチを切っただけでは、機器は電源から完全に遮断されません。完全に遮断するためには、電源プラグを抜いてください。

リモコン

メーカーセットアップコードを正しく設定しておくと、ケンウッドの機器だけでなく、他社製の機器もリモコンで操作できます。 →46

❶ LCD（液晶ディスプレイ） →46

❷ RECEIVER ON キー →23
主電源がオンのとき本機の電源をオンにします。
RECEIVER STANDBY キー
主電源がオンのとき本機をスタンバイ状態にします。

❸ インプットセレクターキー（DVD/6CH、VIDEO 1、VIDEO 2, VIDEO 3、CD/DVD、MD/TAPE、PHONO、AV AUX、TUNER）
入力ソースを選択します。 →31
リモコンに他の機器を登録したり操作するときに使います。 →46

❹ ACTIVE EQキー →32
ACTIVE EQの設定をするときに使います。

❺ 数字キー
チューナーのプリセットコールキーとして使います。 →36
セットアップコードの入力など、数字の入力に使います。 →46
他の機器の操作に使います。

❻ TONE キー →33
トーンを調節するときに使います。
BASS BOOST キー →33
低音域を調節できる最大値に設定します
LOUDNESS キー →33
低音域を上げるときに使います。
AUTO キー
SUBTITLE キー
ANGLE キー
他の機器の操作に使います。

❼ MULTI △/▽/◁/▷ キー
いろいろな設定に使います。
他の機器の操作に使います。
TOP MENU キー
MENU キー
RETURN キー
EXIT キー
ON SCREEN キー
GUIDE キー
他の機器の操作に使います。
ENTER キー
選択の決定に使います。
他の機器の操作に使います。
SETUP キー →23
スピーカーの設定などをするときに使います。
SOUND キー →43
音質や音場を調節したいときに使います。

❽ DIMMER キー →45
ディスプレイの明るさを調節します。
II キー
他の機器の操作に使います。

❾ P.CALL |◀◀/▶▶| キー →36
記憶させた放送局を受信するときに使います。
CHANNEL ー/十 キー
他の機器の操作に使います。

❿ LISTEN MODE △/▽ キー →40
リッスンモードを選ぶときに使います。

⓫ INPUT MODE キー →12
インプットモードの設定に使います。

⓬ DISC SEL. キー
INPUT SEL. キー
他の機器の操作に使います。

⓭ ⏻ TV キー
テレビの電源のオン/オフを切り換えます。

⓮ ⏻ SOURCE（ソース電源） キー
リモコンに登録した他の機器の電源のオン/オフを切り換えます。

⓯ TV MODE キー
テレビを操作するときに使います。

⓰ RCV MODE（レシーバーモード）キー
リモコンをレシーバー操作モードに切り換えます。

⓱ TV INPUT キー
テレビの操作をするときに使います。

⓲ TV MUTE キー
テレビの音を一時的に消すときに使います。

⓳ TV VOL. △/▽ キー
テレビの音量を調節するときに使います。

⓴ MUTE キー →33
音を一時的に消すときに使います。

㉑ VOLUME △/▽ キー →31
本機の音量を調節します。

㉒ BAND キー →35
放送バンドを切り換えます。
▶/II キー
他の機器の操作に使います。
AUTO/MONO キー →35
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。
■ キー
他の機器の操作に使います。

㉓ SLEEP キー →45
おやすみタイマーを設定するときに使います。
● キー
他の機器の操作に使います。

㉔ TUNING ◀◀ / ▶▶ キー →35
ラジオ放送の選局に使います。

㉕ DSP MODE キー →42
DSPモードを選択するときに使います。
DOLBY VIRTUAL キー →42
Dolby Virtual SpeakerとDolby Headphoneの設定に使います。
STEREO キー →42
リッスンモードを一時的にステレオに切り換えるときに使います。
THX キー →40
THXの状態を切り換えるときに使います。

㉖ PAGE ▲/▼ キー
他の機器の操作に使います。

㉗ LEARN キー
他の機器を登録するときに使います。 →46
他の機器のリモコンのコードを記憶させるときに使います。 →48

㉘ DISC SKIP キー
マルチCDプレーヤーを接続したときに、ディスクスキップキーとして使います。
LAST キー
他の機器の操作に使います。

⚠ **注意** 接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は13ページ～22ページをご覧ください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障かな?と思ったら」を参照してマイコンをリセットしてください。 →56

⚠ 警告 ACコンセント

背面のACコンセントに接続する装置の消費電力の合計が指定値を超えないようにしてください。火災の原因になります。
電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

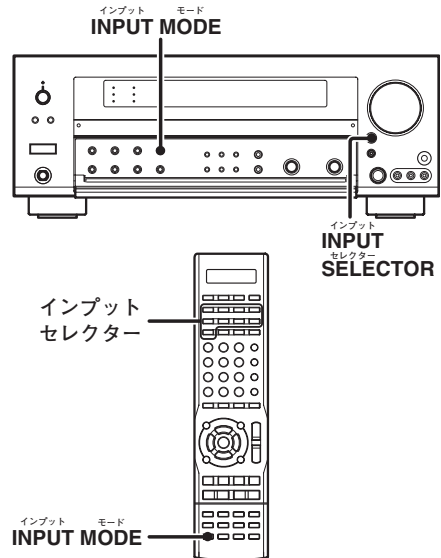
ご注意

1. 機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4. 屋外アンテナの設置は危険を伴いますので、販売店、または専門の技術者にご依頼ください。
5. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

アナログ接続について

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。オーディオピンコードは赤い端子（R側に接続）と白い端子（L側に接続）のペアになっています。これらのコードはお手持ちの機器に付属されています。もしくはお近くの販売店で購入してください。

インプットモードの設定

CD/DVD、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD/6CHの入力は、それぞれデジタル音声入力とアナログ音声入力の端子を持っています。
工場出荷時におけるCD/DVD、DVD/6CH、VIDEO 2およびVIDEO 3のオーディオ信号インプットモードはフルオートモードに設定してあります。
接続を終了し、本機の電源を入れた後に以下の操作でインプットモードを選んでください。

❶ INPUT SELECTORキーでCD/DVD、VIDEO 2、VIDEO 3またはDVD/6CHを選ぶ。

❷ INPUT MODEキーを押す。
押すたびに切り換わります。

DTSモードのとき
① FULL AUTO （デジタル入力、アナログ入力）
② DIGITAL MANUAL （デジタル入力）

CD/DVD、VIDEO 2、VIDEO 3またはDVD/6CHのとき
① FULL AUTO （デジタル入力、アナログ入力）
② DIGITAL MANUAL （デジタル入力）
③ 6CH INPUT※ （DVD/6CH入力）
④ ANALOG （アナログ入力）

※ インプットセレクターキーでDVD/6CHを選んだときに選択ができます。

オートディテクト：
FULL AUTO モード（ディスプレイ内の“AUTO DETECT”表示点灯）ではデジタル入力信号を自動的に検出し、再生します。また、デジタルソース再生時には入力信号の種類(ドルビーデジタル、DTS、AAC、PCMなど)とスピーカーの設定に合わせてリッスンモードを自動的に選びます。 →40
デジタル信号が検出された場合は**“DIGITAL”**表示が点灯します。デジタル信号が検出されないときには**“DIGITAL”**表示が消灯します。

デジタル入力：
デコードの状態（ドルビーデジタル、DTS、PCM等）を現在のリッスンモードに固定したいときに選びます。
DIGITAL MANUALモードに設定した場合、リッスンモードによっては、設定したリッスンモードが自動的に変更されることがあります。 →40

アナログ入力：
ビデオテープなどに記録されているアナログ音声信号を再生したいときに選びます。
INPUT MODEキーをすばやく押すと、音声が聞こえなくなることがあります。その場合再度INPUT MODEキーを押し直してください。

DVDプレーヤーの接続

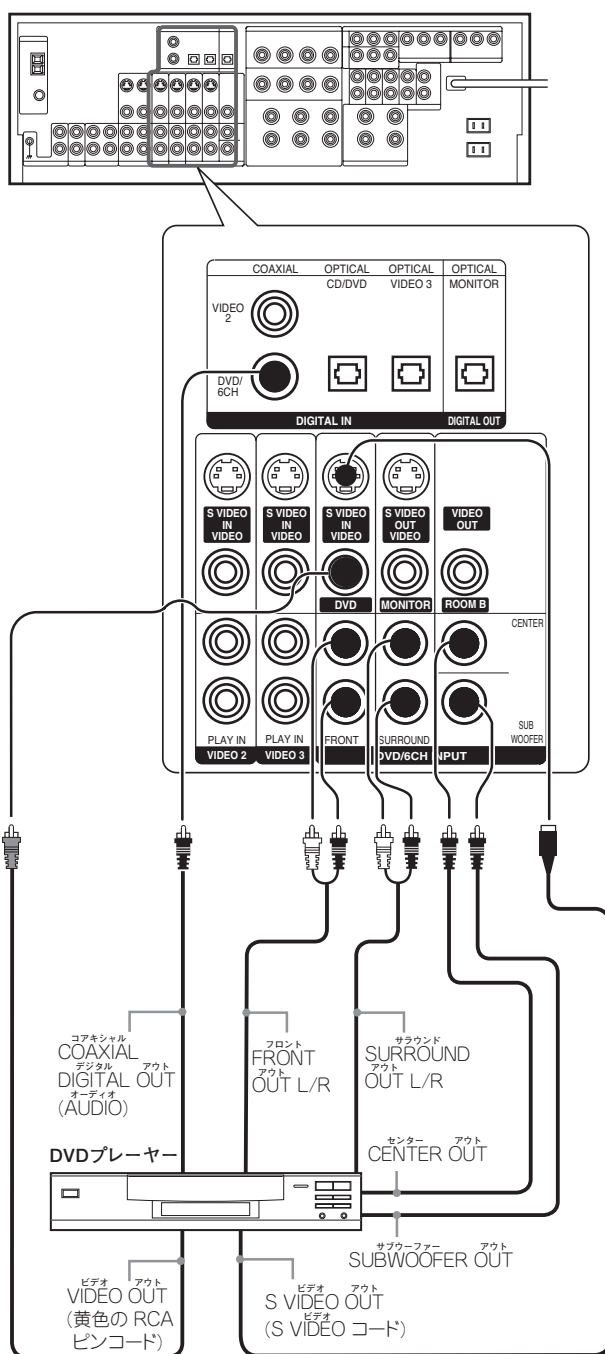
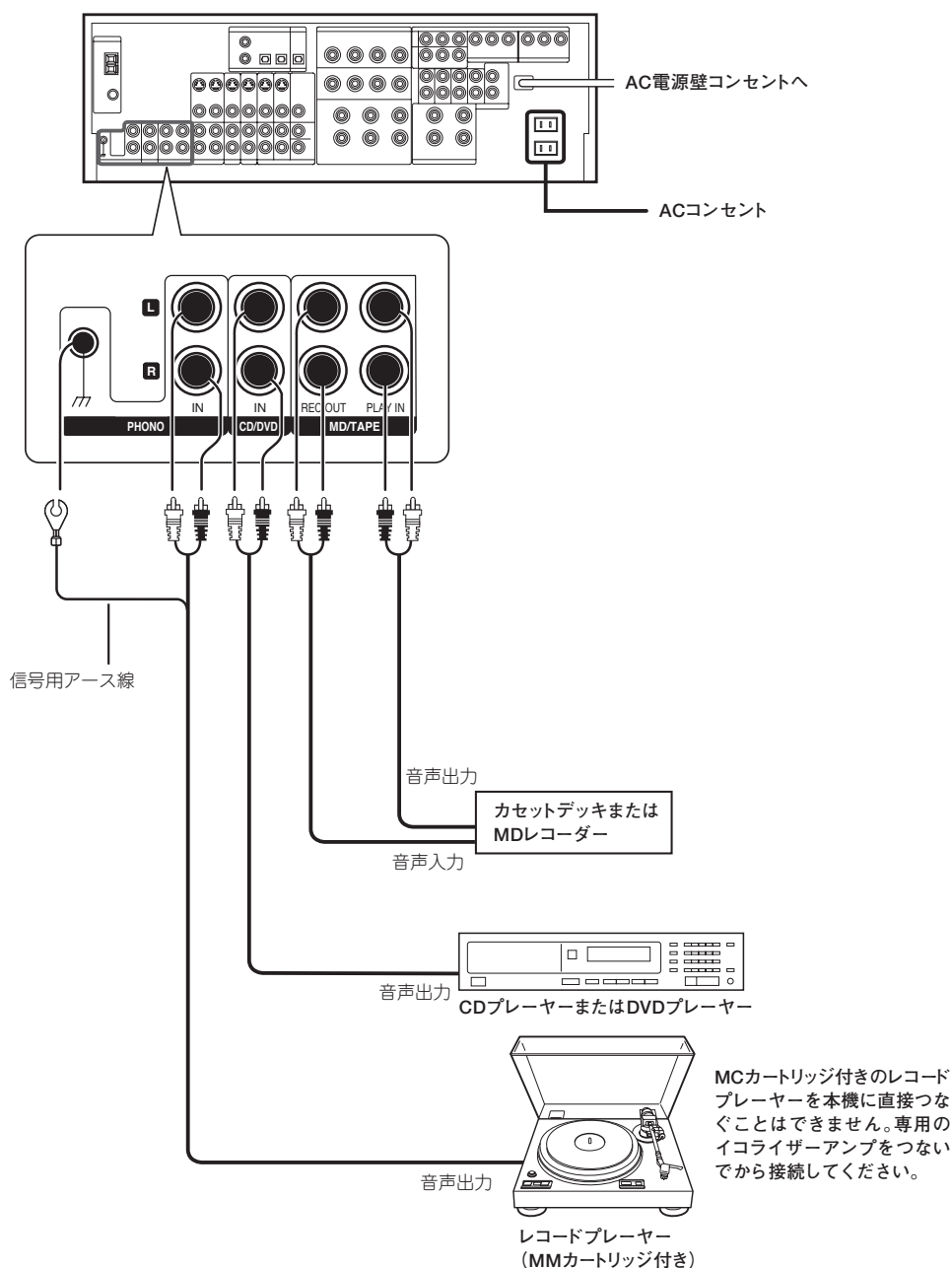
DVDプレーヤーのデジタル端子と接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 →12

- ドルビーデジタル、DTSなどマルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声の接続が必要です。
- ここで接続したDVDプレーヤーを再生するときは、インプットセレクターで“DVD/6CH”を選んでください。 →31
- DVDプレーヤーにコンポーネント映像出力がある場合は、COMPONENT VIDEO DVD IN端子に接続することができます。 →17
- 映像入力端子は、インプットセレクター“DVD/6CH”と“CD/DVD”の共用端子になっています。

DVDプレーヤーの接続（6チャンネル入力）

DVDプレーヤーにアナログのマルチチャンネル出力がある場合は、**DVD/6CH INPUT**端子に接続しDVDプレーヤーのデコーダーを使用してマルチチャンネル再生をすることができます。

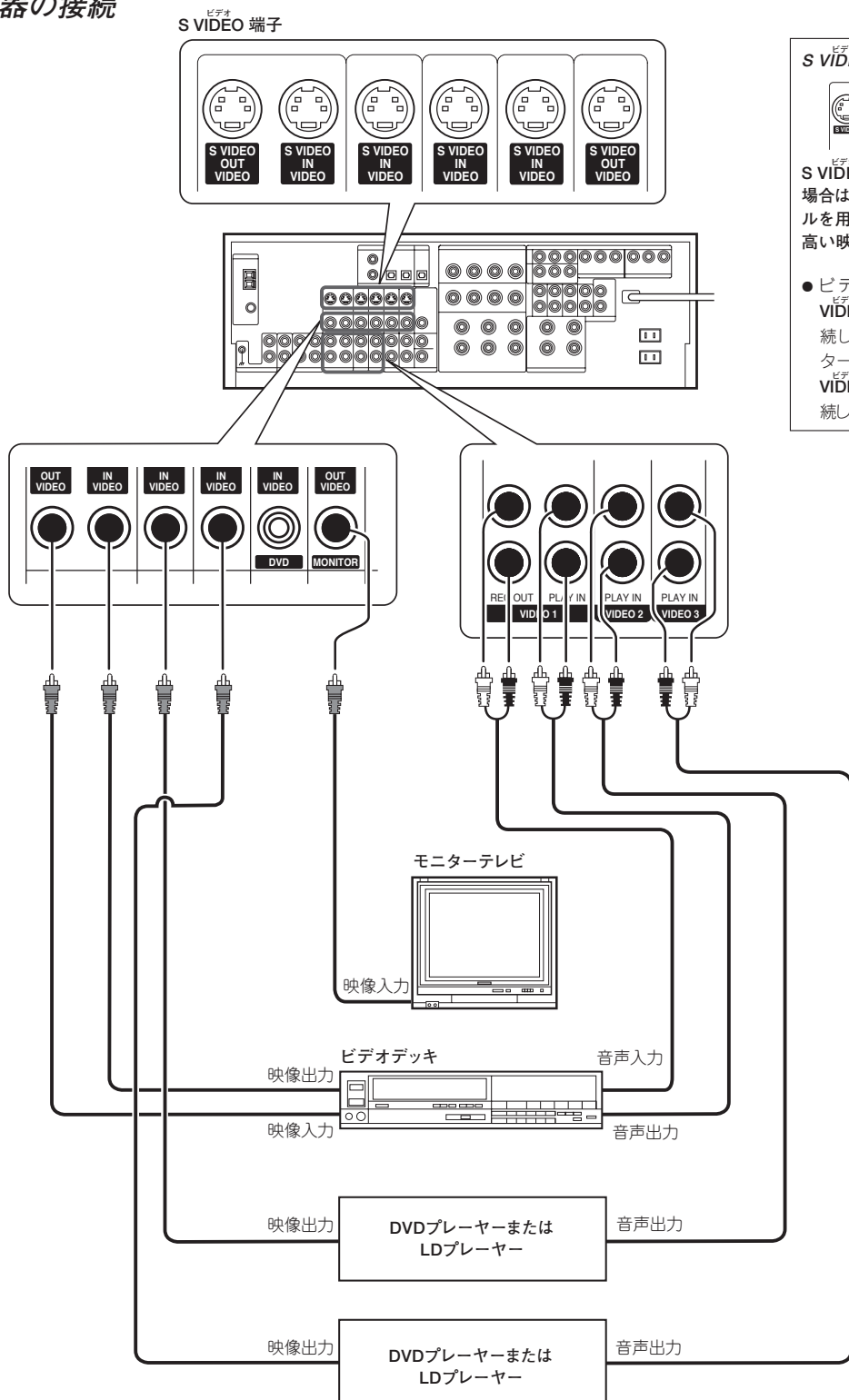
インプットモードの設定は**“6CH INPUT”**を選んでください。 →12

DVDプレーヤーの他に市販のマルチチャンネルデコーダーを接続することもできます。

オーディオ機器の接続

- CD/DVD端子に映像機器を接続する場合は、機器の映像出力を本機の映像入力端子"DVD"に接続してください。機器にコンポーネント映像出力がある場合は、COMPONENT VIDEO DVD IN端子に接続することができます。 →17
  これらの端子に接続した機器を再生するときは、インプットセレクター"CD/DVD"を選んでください。 →31
  これらの映像入力端子は、インプットセレクター"DVD/6CH"と"CD/DVD"の共用端子になっています。
- アース端子（⏚マークの端子）はアナログプレーヤーを接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

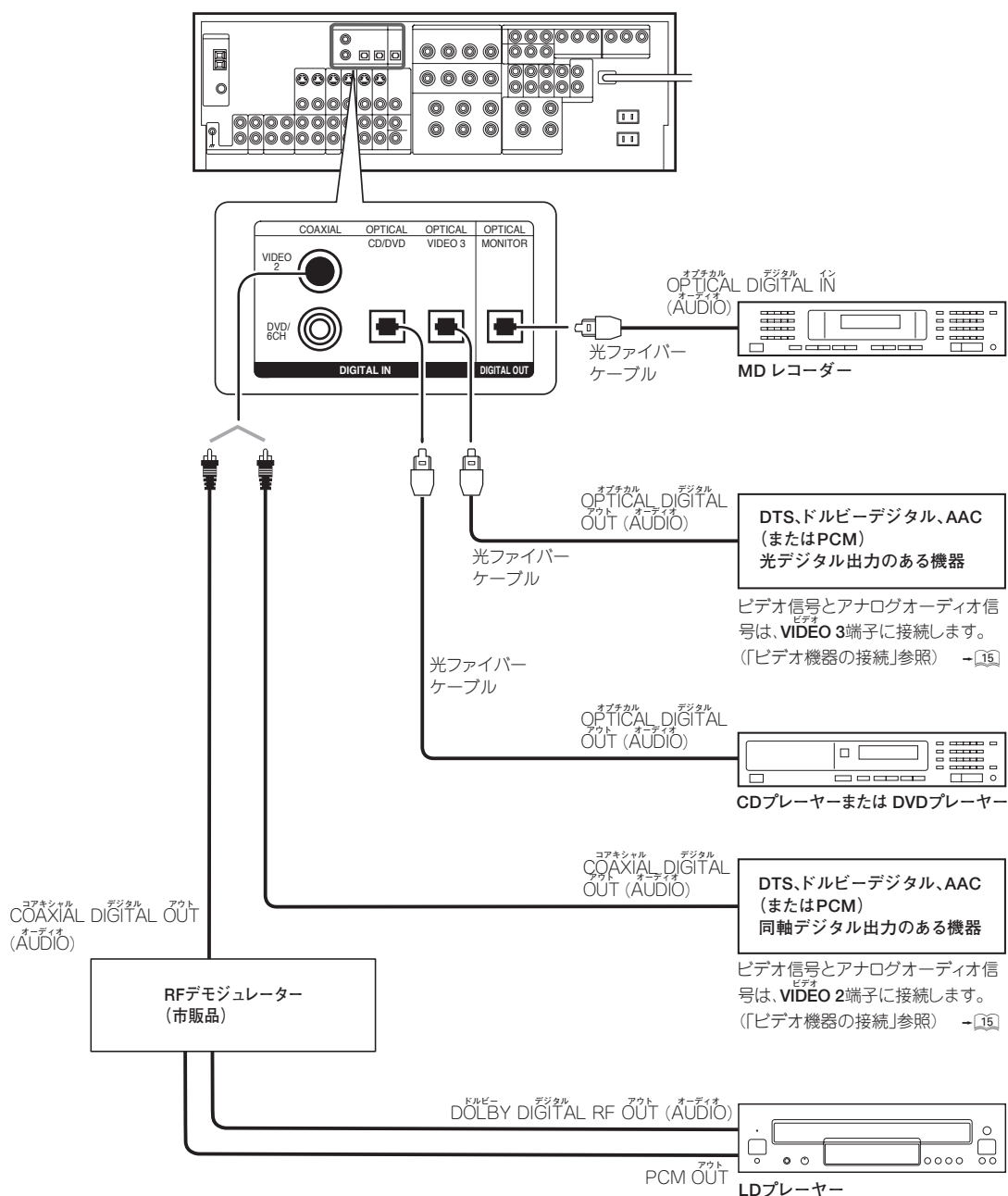
ビデオ機器の接続

S VIDEO端子

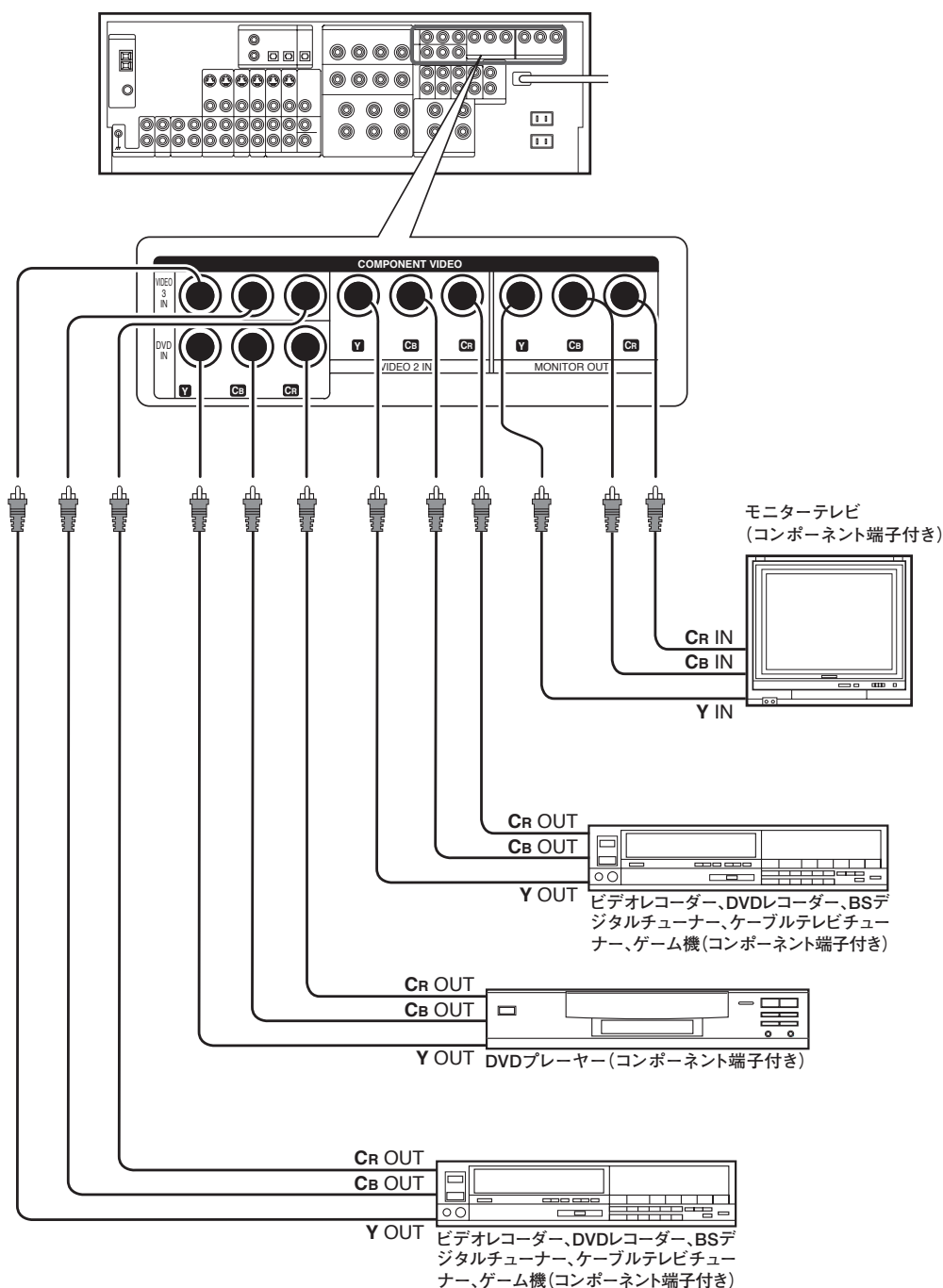
S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続ケーブルを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。

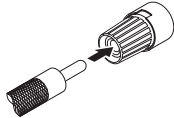
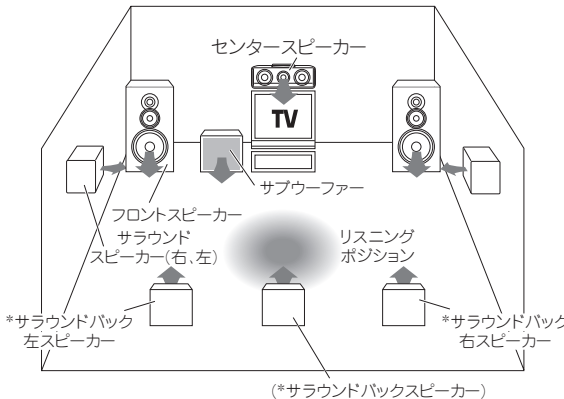
- ビデオデッキなどをS VIDEO接続ケーブルで接続したときは必ずモニターテレビへの接続もS VIDEO接続ケーブルで接続してください。

- デジタル音声出力のあるビデオ機器をお持ちの方はVIDEO 2またはVIDEO 3端子に接続してください。
- 映像入力端子は、インプットセレクターの“DVD/6CH”と“CD/DVD”の共用端子になっています。
- 映像入力にVIDEO（コンポジット）端子を使用する場合は、映像出力もVIDEO（コンポジット）端子を使用することをTHXは推奨します。

デジタル機器の接続

デジタル入力端子はドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM信号で使用できます。ドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM（CDなど）標準フォーマットのデジタル信号を出力できる機器を接続します。
デジタル機器を接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 →12

DIGITAL RF OUT端子のあるLDプレーヤーを接続するには、LDプレーヤーをRFデモジュレーター（市販品）に接続します。
それから、デモジュレーターのDIGITAL OUTを本機のDIGITAL IN端子に接続します。
ビデオ信号とアナログオーディオ信号をVIDEO 2端子またはVIDEO 3端子に接続します。（「ビデオ機器の接続」参照）

ビデオ機器の接続（COMPONENT VIDEO）

COMPONENT端子を使用してレシーバーとビデオ装置の接続をした場合はS VIDEO端子を使用して接続した場合よりも高品質の画像が得られます。

- COMPONENT端子を使ってテレビを接続する場合は、他のすべての機器もCOMPONENT端子を使って接続してください。
- 映像入力端子は、インプットセレクターの“DVD/6CH”と“CD/DVD”の共用端子になっています。

スピーカーターミナルへの接続

- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

スピーカーインピーダンス

フロントスピーカー	6～16 Ω
センタースピーカー	6～16 Ω
サラウンドスピーカー	6～16 Ω
サラウンドバックスピーカー	6～16 Ω

スピーカーの設置のしかた

センタースピーカー
TV
サブウーファー
フロントスピーカー
サラウンド
スピーカー（右、左）
リスニング
ポジション
*サラウンドバック
左スピーカー
*サラウンドバック
右スピーカー
（*サラウンドバックスピーカー）

最適な音響効果を得るために、THX Select2 Cinema、THX MusicModeおよびTHX Gamesの各モードをご使用の際はサラウンドバック左スピーカーとサラウンドバック右スピーカーを隣接させて配置してください。

＊7.1チャンネルサラウンドサウンドシステムの場合ではサラウンドバックスピーカー（サラウンドバックスピーカーL／R）を2本、6.1チャンネルサラウンドサウンドシステムの場合は1本のサラウンドバックスピーカーを接続します。

フロントスピーカー：前面左右に設置します。モードにかかわらず必ず使用します。

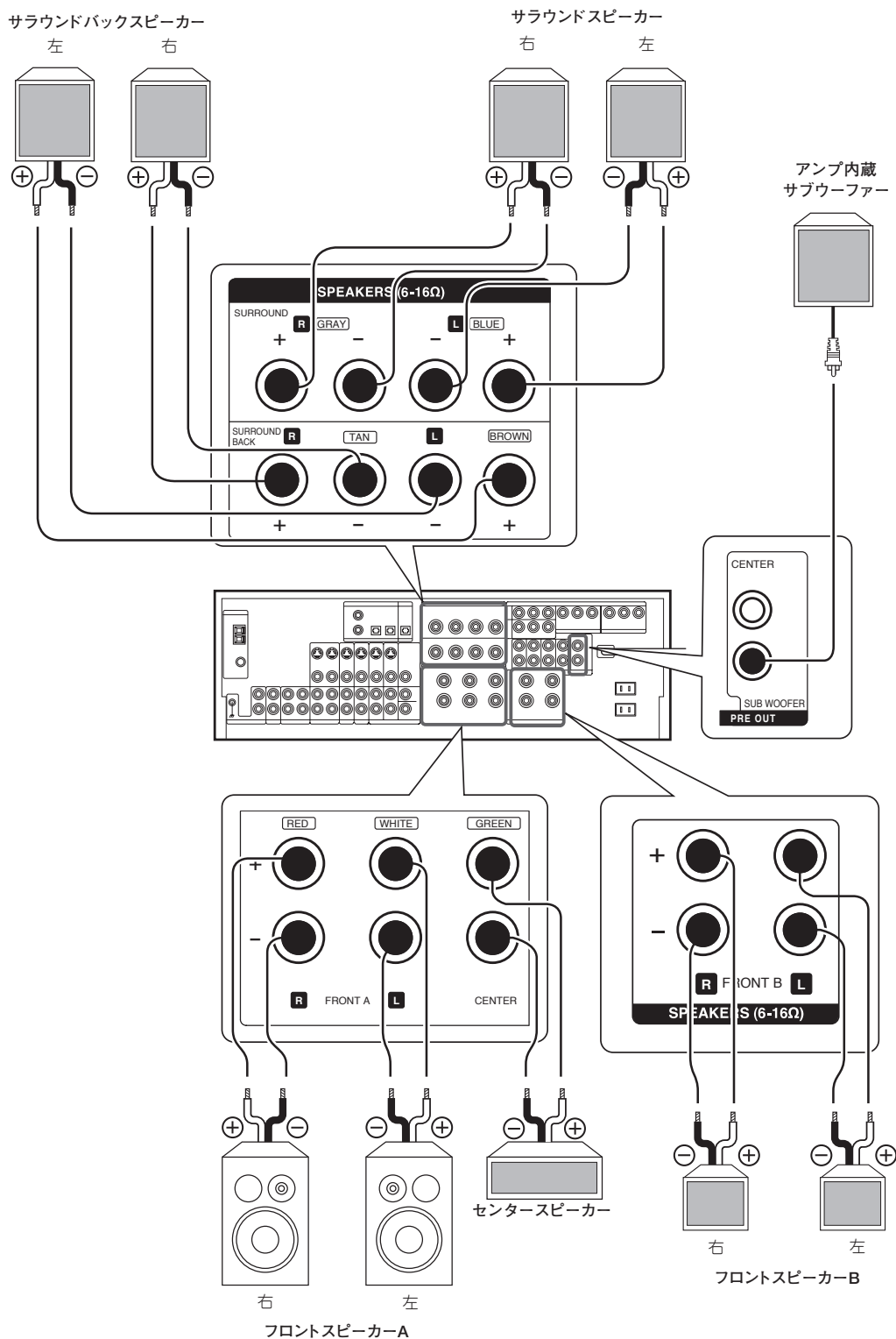
センタースピーカー：前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。

サラウンドスピーカー：座る位置の真横または少し後ろで、聴く人の耳の位置より1メートルほど上方に、水平な状態で設置してください。音の移動感や臨場感などを再現します。

サブウーファー：サブウーファーは一般的に部屋の前方中央のフロントスピーカー付近に置きます。（他のスピーカーとくらべ指向性があまり強くありませんので、お部屋のレイアウトに合わせて重低音がよく聞こえる位置に設置してください。）

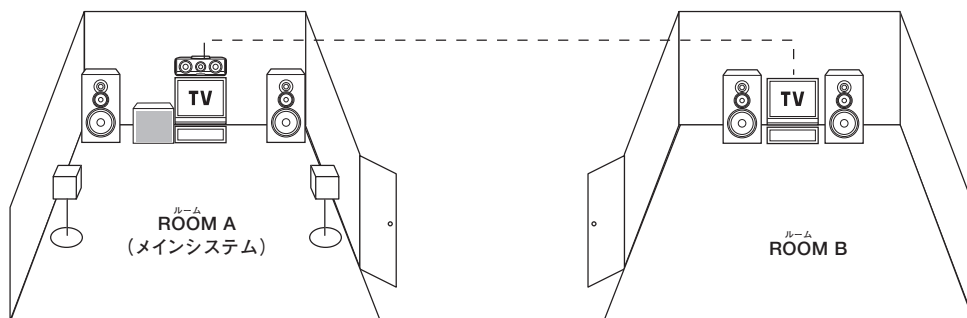
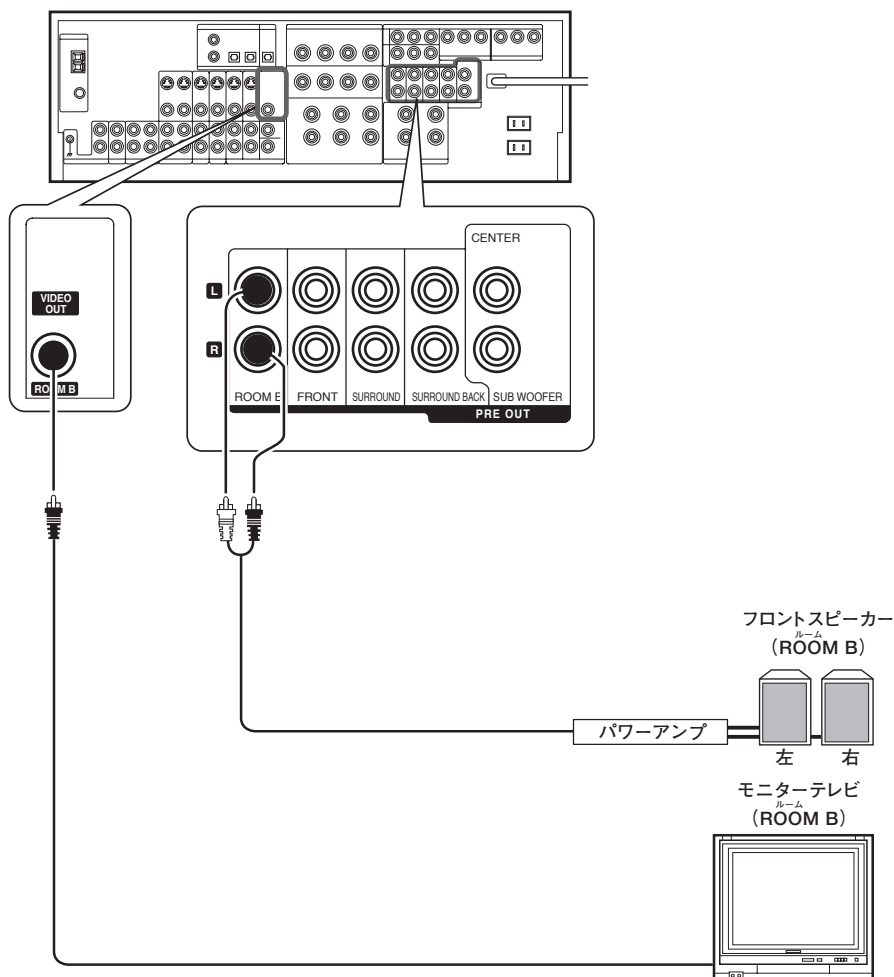
サラウンドバックスピーカー：サラウンドバックスピーカーはお聴きになる視聴位置の後ろで左右のサラウンドスピーカーと同じ高さに設置してください。

- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーまたはサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。 ➡23

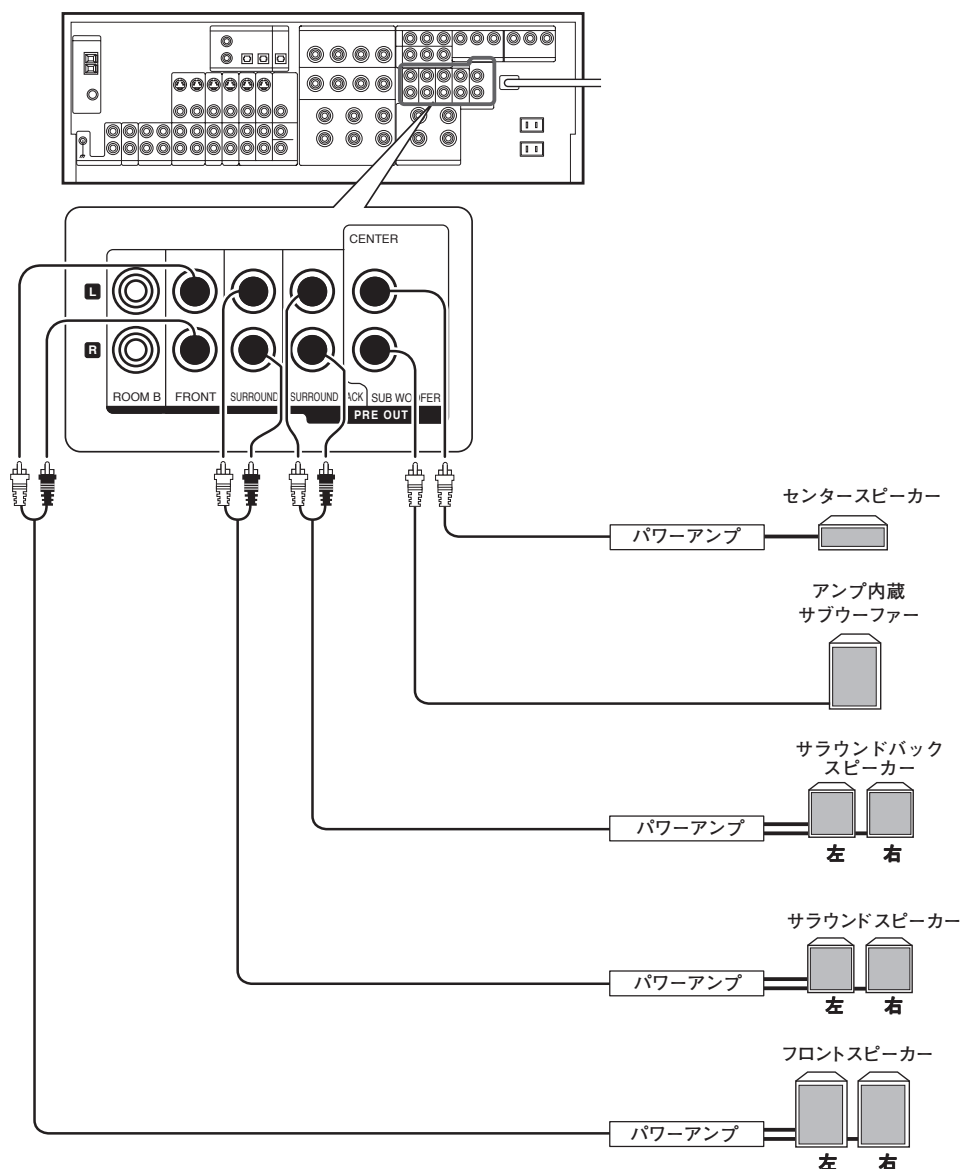
スピーカーの接続

- 各スピーカーが正しく接続されているかどうか、テストトーンを出力して確認してください。
  2 各スピーカーの音量レベルを調節する。 →27
- 本機はサラウンドバックスピーカーを2本で使用することを前提として設計しております。このため、サラウンドバックスピーカーを1本で使用する場合は、サラウンドバックLに接続し、スピーカー設定時に"SB LARGEx1"または"SB NML/THXx1"を選んでください。 →27
- 2組目のフロントスピーカーを接続する場合、または他の部屋のスピーカーを本機に接続する場合はSPEAKERS FRONT B端子に接続してください。

他の部屋への接続(ROOM B)

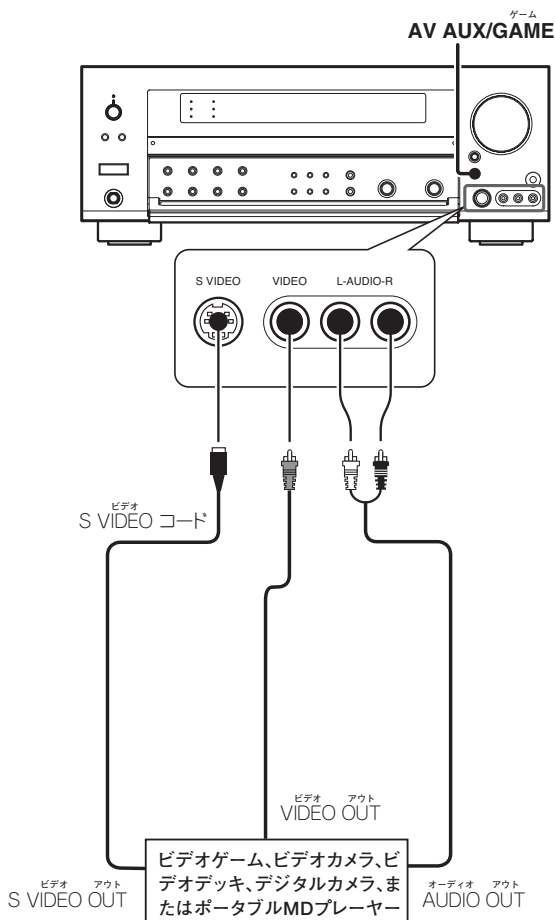
他の部屋(ROOM B)のテレビまたはスピーカーを本機に接続することができます。

VIDEO OUT
ROOM B
CENTER
L
R
ROOM B
FRONT
SURROUND
SURROUND BACK
SUB WOOFER
PRE OUT
フロントスピーカー
(ROOM B)
パワーアンプ
左
右
モニターテレビ
(ROOM B)

ROOM B の PRE OUT端子からはフロントスピーカーAと同じ音が出ます。他の部屋 (ROOM B) でお楽しみいただくときは、リッスンモードをSTEREOモードに切り換えてください。 → 42

PRE OUT の接続

本機にはPRE OUT端子が付いています。これらは色々な目的に使用することができますが、下図に例が示されているように追加のパワーアンプが必要となります。

- スピーカーコードをPRE OUT端子に接続しても、スピーカーからは音は出ません。
- PRE OUT端子を使用するときは、スピーカーシステムの選択は、スピーカーAをONにしてください。 →31

本体前面のAV AUX端子への接続

ポータブルビデオカメラ機器など通常は本機に接続してご使用にならない機器は、本体の前面にあるAV AUX端子に接続します。ポータブルビデオカメラからダビングする時などに使用すると便利です。

- 本機にはゲーム機器を使用するときに便利なGAME機能があります。このGAME機能を使うためには、ゲーム機器をAV AUX端子につなぎ、GAMEモードをオンにしてください。 →31
- AV AUX端子に接続されたソースを選択する場合は、AV AUXキーを押してください。 →31
- ポータブルビデオカメラのほかに、ポータブルMDプレーヤーなどのオーディオ機器も接続することができます。その場合は、AUDIO L/R端子のみ接続してください。
- S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続ケーブルを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。

アンテナの接続

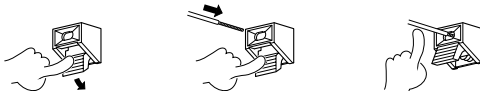
アンテナを接続しないとAM、FM放送を受信できません。下記にしたがって正しく接続してください。

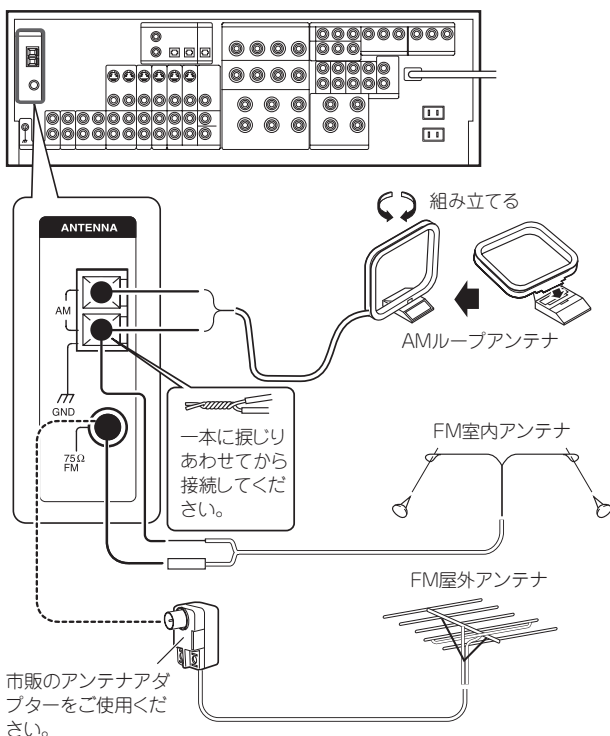
⚠ 注意 *屋外アンテナ設置上のご注意*

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

AMループアンテナの接続

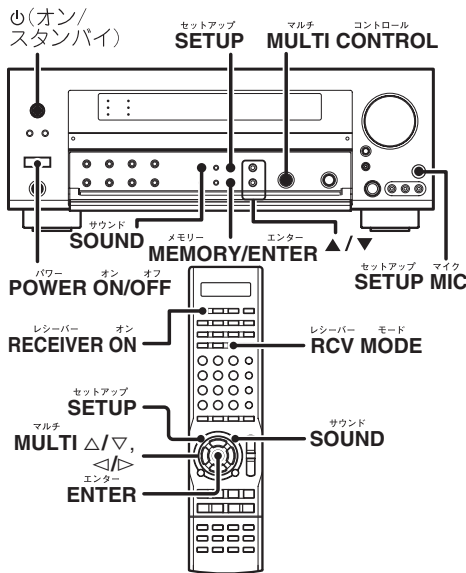
付属のアンテナは本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。

AMアンテナ端子の接続のしかた

FM室内アンテナの接続

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします。屋外アンテナを接続する場合は、室内用アンテナは取り外してください。

FM屋外アンテナの接続

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM75Ω 端子に接続します。

スピーカーの設定をする前に

最適なサラウンド再生のためには接続したスピーカーに応じて各種設定が必要です。
下記手順にひきつづき、次ページ以降の設定を行ってください。

1 *"スピーカーの設定を自動で行う(AUTO SETUP)"を行うときは付属のセットアップ用マイクをSETUP MIC端子につなぐ。*

2 *本機のPOWER ON/OFFと⏻(オン/スタンバイ)キーまたは、リモコンのRECEIVER ONキーを押して本機の電源をオンにする。*

3 *リモコンで操作するときは、リモコンのRCV MODEキーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。*

4 *SETUPキーを押して、SETUPモードにする。*

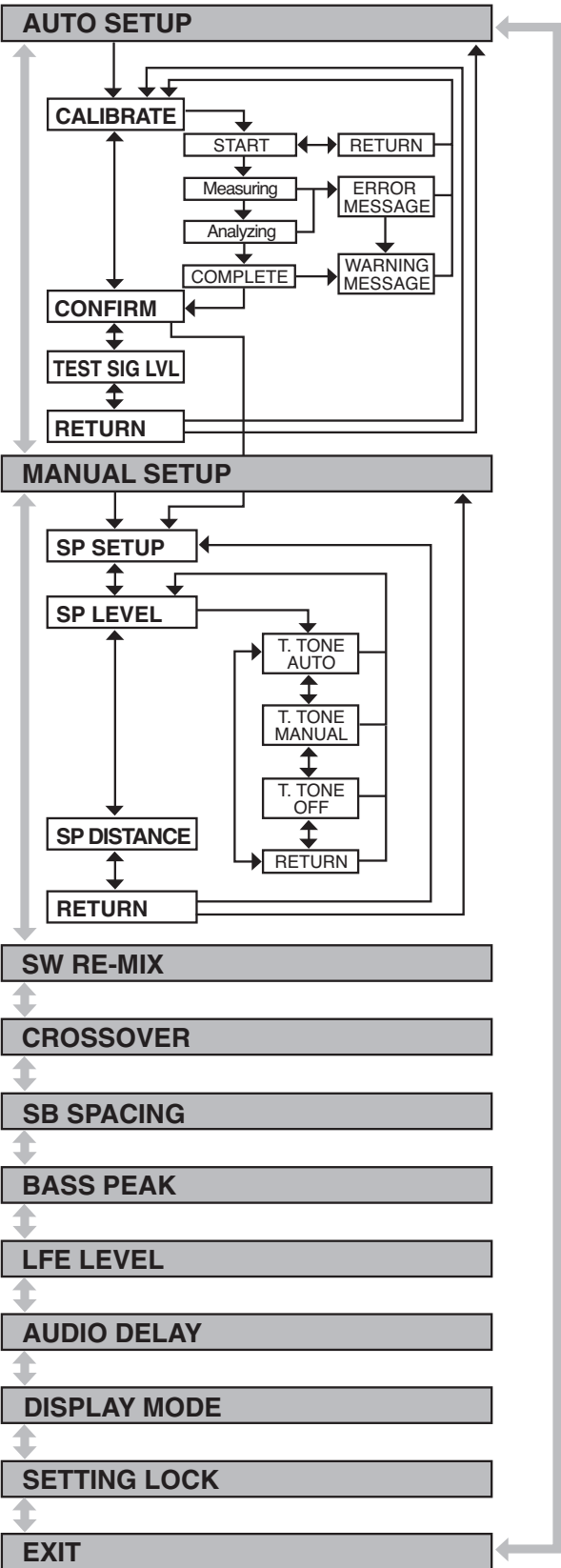
▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使うと次の順で切り換わります。

① AUTO SETUP
② MANUAL SETUP
③ SW RE-MIX
④ CROSSOVER
⑤ SB SPACING
⑥ BASS PEAK
⑦ LFE LEVEL
⑧ AUDIO DELAY
⑨ DISPLAY MODE
⑩ SETTING LOCK
⑪ EXIT

スピーカー設定の手順、は右図のようになります。

AUTO SETUP
CALIBRATE
START ⇔ RETURN
Measuring → ERROR MESSAGE
Analyzing
COMPLETE → WARNING MESSAGE
CONFIRM
TEST SIG LVL
RETURN

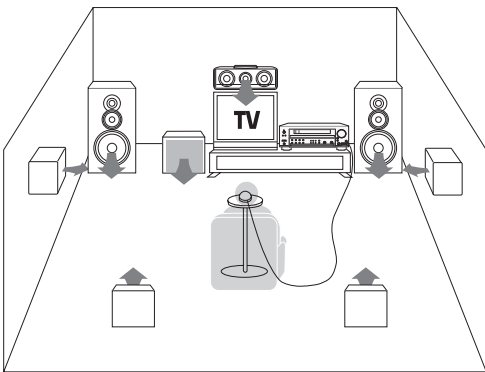
MANUAL SETUP
SP SETUP
SP LEVEL
T. TONE AUTO
T. TONE MANUAL
T. TONE OFF
RETURN
SP DISTANCE
RETURN

SW RE-MIX
CROSSOVER
SB SPACING
BASS PEAK
LFE LEVEL
AUDIO DELAY
DISPLAY MODE
SETTING LOCK
EXIT

スピーカーの設定を自動で行う (AUTO SETUP) "Auto Room EQ"

> ⚠ **測定中はスピーカーより大きなテスト信号が出力されます。特に夜間には近隣やお子さまに十分配慮してください。**

Auto Room EQ機能は、スピーカーより出力されるテスト信号を付属のマイクで測定し、リスニングポジションに最適な音場になるように、以下の設定や調整を自動で行います。

① 各スピーカーの有無およびサイズ
② 各スピーカーからの音量レベルの差
③ 各スピーカーからの音の遅延
④ 室内の音響特性

- 測定のイメージ
  マイクは耳の位置に置いてください。
  スピーカーとマイクの間には障害物を置かないでください。

1 自動でキャリブレーションを行う。

❶ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使ってAUTO SETUPを選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**

❷ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って"CALIBRATE"を選択し、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**
- 測定開始表示**"START"**になります。
- 測定を開始したくないときは、▲/▼キーまたは、**MULTI** ◁/▷ キーを使って**"RETURN"**を選択し、**MEMORY/ENTER**キーまたは、**ENTER**キーを押すと**"CALIBRATE"**の表示に戻ります。

❸ **MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すと測定を開始します。**
- 測定中の表示**"Measuring..."**になります。
- 測定が完了するまでに約2分間かかります。
- セットアップ用マイクが接続されていないと**"E01:No MIC"**と表示され、測定できません。
- 測定が完了すると解析を行う間、**"Analyzing x/4"**（xは1から4）と表示します。解析が完了すると数秒間**"COMPLETE"**と表示した後に**"CONFIRM"**と表示されます。
- 測定中は電源をオフにしないでください。
  オフにすると測定内容は工場出荷状態に戻ります。

2 AUTO SETUPモードを終了する。

"CONFIRM"と表示されたらMEMORY/ENTERキーまたはENTERキーを押す。
- 測定内容の確認表示**"SP SETUP"**になります。 ➞26
- **"CONFIRM"**と表示されているときに▲/▼キーまたは、**MULTI** ◁/▷ キーを使って**"RETURN"**を選択し、**MEMORY/ENTER**キーまたは、**ENTER**キーを押すと**"AUTO SETUP"**の表示に戻ります。

ご注意
- サブウーファーと部屋の特性には相互に複雑な影響があるため、THXではサブウーファーのレベルと距離は手動で設定することを推奨します。
- また，部屋の特性によってはフロントスピーカーのレベルや距離が正しくない測定結果となることがあります。このような場合は手動で設定しなおしてください。
- THXが承認したスピーカーを接続しているときは，スピーカーの設定がNML/THXに、**CROSSOVER**が**"FREQ.:80Hz-THX"**に設定されている必要があります。測定結果が違う場合は，手動で設定しなおしてください。

テスト信号のレベルの調節

各スピーカーが正しく接続されているにもかかわらず Exx : No Spk XX あるいは Wxx : No Spk XX のメッセージが表示されたときは、テスト信号のレベルを調節してください。

❶ **"CONFIRM"または"CALIBRATE"が表示されているときに▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って"TEST SIG LVL"を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってテスト信号のレベルを選ぶ。**
① **LEVEL Low**
② **LEVEL Mid**
③ **LEVEL High**

❸ **MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押して確定させる。**

❹ **"1 自動でキャリブレーションを行う。" の手順❷へと進む。**

測定を中断するには

以下のいずれかのキーを操作すると測定を中断して通常の入力表示画面に戻ります。
① **⏻ (オン/スタンバイ) キーまたは、RECEIVER STANDBY キー**
② **VOLUME CONTROLつまみまたは、VOLUME △/▽ キー**
③ **SETUPキー**
④ **INPUT SELECTORキー**

- 測定を中断すると測定内容は工場出荷状態に戻ります。

エラーメッセージについて

キャリブレーション中に何らかの不具合が検出されるとディスプレイにエラーメッセージが表示されて処理が中断します。
メッセージの内容より不具合を解消してから再度キャリブレーションをやり直してください。複数のエラーメッセージがある場合はメッセージの表示中に▲/▼キーまたは、**MULTI** ◁/▷ キーを押すと次のメッセージを表示することができます。
MEMORY/ENTERキーまたは、**ENTER**キーを押すと**"CALIBRATE"**の画面に戻ります。

E01 : No MIC
マイクが接続されていません。
付属のセットアップ用マイクをSETUP MIC端子に接続してください。

E02 : Headphone
ヘッドホンがつながっています。
ヘッドホンを抜いてください。

E03 : No Spk FL E04 : No Spk FR
フロント左（右）スピーカーが接続されていません。
フロント左（右）スピーカーを接続してください。

E05 : No Spk SL E06 : No Spk SR
サラウンド右（左）スピーカーが検出されましたがサラウンド左（右）スピーカーが接続されていません。
サラウンド左（右）スピーカーを接続してください。

E07 : No SpkSBL
サラウンドバック右スピーカーが検出されましたがサラウンドバック左スピーカーが接続されていません。
7.1チャンネルシステムの場合はサラウンドバック左スピーカーを接続してください。 6.1チャンネルシステムの場合はサラウンドバック右スピーカーをサラウンドバック左につなぎかえてください。

E08 : SB w/o S
サラウンドバックスピーカーが検出されましたが、サラウンド左／右スピーカーが接続されていません。
サラウンド左／右スピーカーを接続してください。

E09 : MIC clip
マイクが過大な信号を検出しました。
マイクに触れたり振動を加えたりせずに再度測定を行ってください。

E10 : VolChange
測定中にVOLUME（ボリューム）が操作されました。
測定中はVOLUME（ボリューム）を操作しないでください。

E99 : Error
本機内部で通信エラーが起こりました。
再度測定を行い、同じエラーメッセージが表示される場合はケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

ワーニングメッセージについて

数秒間**"COMPLETE"**（コンプリート）と表示されてキャリブレーションが終了しても、何らかの軽微な不具合が検出されるとディスプレイにワーニングメッセージが表示されます。
メッセージの内容より不具合を解消してから再度キャリブレーションをやり直すか、不具合を理解した上でAUTO SETUP（オート セットアップ）を終了してください。

- 複数のワーニングメッセージがある場合は,メッセージの表示中に▲/▼キーまたは、**MULTI**（マルチ） ⊲/⊳ キーを押すと次のメッセージを表示することができます。
- **MEMORY/ENTER**（メモリー/エンター）キーまたは、**ENTER**（エンター）キーを押すと**"CALIBRATE"**（キャリブレート）の画面に戻ります。
- お使いのスピーカーによっては正しく接続していてもワーニングメッセージが表示される場合がありますが不具合ではありません。

W01 : Phase F
フロント左または右スピーカーの接続が＋－逆です。
フロント左または右スピーカーの＋－が正しく接続されているかどうか確認してください。

W02 : Phase S
サラウンド左または右スピーカーの接続が＋－逆です。
サラウンド左または右スピーカーの＋－が正しく接続されているかどうか確認してください。

W03 : Phase SB
サラウンドバック左または右スピーカーの接続が＋－逆です。
サラウンドバック左または右スピーカーの＋－が正しく接続されているかどうか確認してください。

W04 : No Spk C
センタースピーカーが接続されていません。
センタースピーカーをお持ちの場合は接続してください。 お持ちでない場合は接続しなくてもかまいません。

W05 : No SW
サブウーファーが接続されていません。
サブウーファーをお持ちの場合は接続してください。

次頁に続く

お持ちでない場合は接続しなくてもかまいません。

W06 : No Spk S
サラウンドスピーカーが接続されていません。
サラウンドスピーカーをお持ちの場合は接続してください。 お持ちでない場合は接続しなくてもかまいません。

W07 : No Spk SB
サラウンドバックスピーカーが接続されていません。
サラウンドバックスピーカーをお持ちの場合は接続してください。 お持ちでない場合は接続しなくてもかまいません。

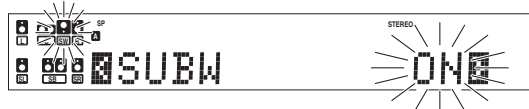
W08 : No SpkSBR
サラウンドバック右スピーカーが接続されていません。
サラウンドバック右スピーカーをお持ちの場合は接続してください。 お持ちでない場合は接続しなくてもかまいません。

スピーカーの設定を手動で行う (MANUAL SETUP)

1 接続しているスピーカーを選ぶ。

THXが承認したスピーカーを接続しているときは、NML/THXに設定します。

❶ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って"MANUAL SETUP"を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**

❷ **"SP SETUP"を選択してMEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すと、サブウーファー設定表示"SUBW ON"になります。**

❸ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってサブウーファーの設定をする。**

① **SUBW ON**　：サブウーファーを接続したとき。
② **SUBW OFF**　：サブウーファーを接続しないとき。

- 初期設定は"SUBW ON"になっています。
- **"SUBW OFF"**を選び、手順❹で▲キーを押して確定した場合、フロントスピーカーは自動的に**"FRNT LARGE"**(ラージ)に設定され、手順❼に進みます。
- サブウーファーからの出力が必要な場合は、**"FRNT NML/THX"**を選ぶか**"FRNT LARGE"**と**"SW RE-MIX ON"**の両方を選んでください。

❹ **▲キーまたは、MULTI ▷ キーを押して確定させる。**
- フロントスピーカーの設定表示、"FRNT"になります。

❺ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってフロントスピーカーの設定をする。**

① **FRNT NML/THX**（ノーマル）：普通のフロントスピーカーのとき。
② **FRNT LARGE**（ラージ）　：大きめのフロントスピーカーのとき。

❻ **▲キーまたは、MULTI ▷ キーを押して確定させる。**
- センタースピーカーの設定表示、"CNTR"になります。

❼ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってセンタースピーカーの設定をする。**

フロントスピーカーを "FRNT LARGE" に設定したとき
① **CNTR NML/THX**（ノーマル）：普通のセンタースピーカーのとき。
② **CNTR LARGE**（ラージ）　：大きめのセンタースピーカーのとき。
③ **CNTR OFF**　：センタースピーカーを接続しないとき。

フロントスピーカーを“FRNT NML/THX”に設定したとき
① CNTR NML/THX ：普通のセンタースピーカーのとき。
② CNTR OFF ：センタースピーカーを接続しないとき。

❽ ▲キーまたは、MULTI ▷ キーを押して確定させる。
- サラウンドスピーカーの設定表示、“SURR”になります。

❾ MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってサラウンドスピーカーの設定をする。

フロントスピーカーを“FRNT LARGE”に設定したとき
① SURR NML/THX（ノーマル）：普通のサラウンドスピーカーのとき。
② SURR LARGE（ラージ）：大きめのサラウンドスピーカーのとき。
③ SURR OFF ：サラウンドスピーカーを接続しないとき。

フロントスピーカーを“FRNT NML/THX”に設定したとき
① SURR NML/THX：普通のサラウンドスピーカーのとき。
② SURR OFF ：サラウンドスピーカーを接続しないとき。

- “SURR OFF”を選び、手順❿で▲キーを押して確定した場合、手順⓬に進みます。ただし、サブウーファーの設定がOFFのときはSETUPキーを押してスピーカーのセットアップを終了し、手順**2**の各スピーカーの音量レベルを調整します。

❿ ▲キーまたは、MULTI ▷ キーを押して確定させる。
- サラウンドバックスピーカーの設定表示、“SB”になります。

⓫ MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってサラウンドバックスピーカーの設定をする。

サラウンドスピーカーを“SURR LARGE”に設定したとき
① SB NML/THXx1（ノーマル）：普通のサラウンドバックスピーカーを1つ接続したとき。
② SB NML/THXx2（ノーマル）：普通のサラウンドバックスピーカーを2つ接続したとき。
③ SB LARGEx1（ラージ）：大きめのサラウンドバックスピーカーを1つ接続したとき。
④ SB LARGEx2（ラージ）：大きめのサラウンドバックスピーカーを2つ接続したとき。
⑤ SB OFF ：サラウンドバックスピーカーを接続しないとき。

サラウンドスピーカーを“SURR NML/THX”に設定したとき
① SB NML/THXx1 ：普通のサラウンドバックスピーカーを1つ接続したとき。
② SB NML/THXx2 ：普通のサラウンドバックスピーカーを2つ接続したとき。
③ SB OFF ：サラウンドバックスピーカーを接続しないとき。

⓬ MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すと“SP SETUP”の画面に戻ります。

2 各スピーカーの音量レベルを調節する。

市販の音圧計をお持ちの場合は、実際に聴く位置でメータの読み取り単位を“C”に設定し、ノイズレベルの読みが75dBになるように各チャンネルの音量レベルを調節します。お持ちでない場合は音量レベルを0dBから調整し、各スピーカーからのレベルがほぼ同じになるようにします。

- 手順 **1** で選ばれたスピーカーで、調節が必要なチャンネルのみ表示されます。

TEST TONEは大きな音が出力されますのでご注意ください。

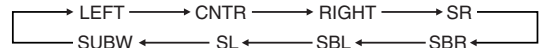
❶ ▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って“SP LEVEL”を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。

❷ ▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って以下の設定を選択する。

① T.TONE AUTO ：テストトーンを使い各スピーカーの音量レベルを調節します。テストトーンは各スピーカーから順番に出力されます。
② T.TONE MANUAL：テストトーンを使い各スピーカーの音量レベルを調節します。テストトーンを出力するスピーカーを選ぶことができます。
③ T.TONE OFF ：テストトーンを使わずに各スピーカーの音量レベルを調節することができます。
④ RETURN ：MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すと“SP LEVEL”の画面に戻ります。

❸ “T.TONE AUTO”または“T.TONE MANUAL”を選びMEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すと、テストトーンの出力が始まります。

調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときにMULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使って音量レベルを調節します。

“T.TONE AUTO”を選択すると最初に左フロントスピーカーから2秒間テストトーンが聞こえ、その後、以下に示される順番で各スピーカーから2秒間ずつテストトーンが聞こえます。

- 手順 **1** で“SB NML/THXx1”または“SB LARGEx1”を選んだときはディスプレイに“SBL”と“SBR”は表示されず、“SB”が表示されます。

テストトーン出力中のチャンネルが点灯します。

- スピーカー設定をOFFにすると、設定していたスピーカーレベルはリセットされます。

“T.TONE MANUAL”を選択した場合、調節したいスピーカーチャンネルを選びます。

“T.TONE OFF”を選択した場合、テストトーンは出力されず、インプットセレクターで選んだソースを聴きながら各スピーカーの音量レベルを調節することができます。 →31

次頁に続く

❹ **MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すとテストトーンが止まり、“SP LEVEL”の画面に戻ります。**

3 スピーカーまでの距離を入力する。

- 手順 1 で選ばれたスピーカーで、調節が必要なチャンネルのみ表示されます。

❶ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って設定メニューの“SP DISTANCE”を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**

❷ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って距離の単位を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**

① UNIT meters
② UNIT feet
③ RETURN　：MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すと“SP DISTANCE”の画面に戻ります。

❸ **リスニングポジション（聴く位置）から各スピーカーまでの距離をはかる。**

メモしておきましょう。

フロント左スピーカーまで(L)	＿＿＿ メートル
センタースピーカーまで(C)	＿＿＿ メートル
フロント右スピーカーまで(R)	＿＿＿ メートル
サラウンド右スピーカーまで(SR)	＿＿＿ メートル
サラウンドバック右スピーカーまで(SBR)	＿＿＿ メートル
サラウンドバック左スピーカーまで(SBL)	＿＿＿ メートル
サラウンド左スピーカーまで(SL)	＿＿＿ メートル
サブウーファーまで(SW)	＿＿＿ メートル

- 手順 1 で**“SB NML/THXx1”**または**“SB LARGEx1”**を選んだときはディスプレイに“SBL”と“SBR”は表示されず、“SB”が表示されます。

❹ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使ってスピーカーを選び、MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってフロントスピーカーからの距離を設定する。**

調整するスピーカーが点滅します。

距離の表示

- 0.03m〜9.14mまで、約0.03mごとに調節できます。

❺ **手順❹を繰り返して各スピーカーまでの距離を入力する。**

❻ **MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すと、“SP DISTANCE” の画面に戻ります。**

- 選ばれたスピーカーが表示部に表示されます。正しく選ばれているかを確認してください。

4 MANUAL SETUPモードを終了する。

❶ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って“RETURN”を選ぶ。**

❷ **MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すと“MANUAL SETUP”の画面に戻ります。**

その他の設定を行う

1 サブウーファーリミックスの設定。

❶ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って"SW RE-MIX"を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってサブウーファーリミックスの設定をする。**
SW RE-MIXをONにすると、スピーカーの設定に応じてサブウーファーに他のチャンネルの低音を加えます。

① **SW RE-MIX ON** ：サブウーファーリミックスの設定をONにするとき。
② **SW RE-MIX OFF** ：サブウーファーリミックスの設定をOFFにするとき。

- サブウーファーの設定がOFFのときまたはフロントスピーカーの設定で**"FRNT NML/THX"**を選んだときは,サブウーファーリミックスは設定できません。
- **"SW RE-MIX OFF"**を選ぶと、低音はフロントスピーカーのみから再生されます。THXではこの設定を希望します。

❸ **MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押して確定させる。**

2 クロスオーバー周波数を選ぶ。

組み合わされるスピーカーの特性に合った調節を行う機能で、スピーカーのサイズに合った特性にします。小型スピーカーなど、スピーカーの大きさにかかわらず、臨場感のあるサウンドが楽しめます。

❶ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って "CROSSOVER"を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**
- 手順❶ですべてのスピーカーに"LARGE"を選んだとき(➡26)、かつ"SW RE-MIX OFF"を選んだときはCROSSOVERは表示されません。

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってクロスオーバー周波数を選ぶ。**
① **FREQ. : 40Hz**
② **FREQ. : 60Hz**
③ **FREQ. : 80Hz-THX**
④ **FREQ. : 100Hz**
⑤ **FREQ. : 120Hz**
⑥ **FREQ. : 150Hz**

THXが承認したスピーカーを接続しているときは、**"FREQ. : 80Hz-THX"**に設定します。

❸ **MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押して確定させる。**

3 サラウンドバック・スピーカーの間隔の設定。

サラウンドバックスピーカーの設定で**"SB NML/THXx2"**または**"SB LARGEx2"**を選んだ時のみ設定できます。

❶ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って"SB SPACING"を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**

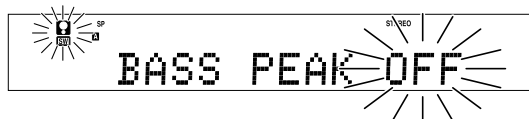
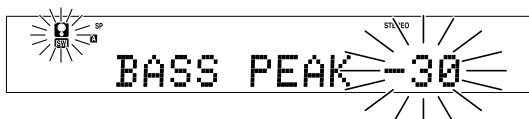
❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってサラウンドバック左スピーカーとサラウンドバック右スピーカーの間隔を設定する。**

① **TOGETHER** ：間隔が1フィート(約0.3m)以下のとき。
② **CLOSE** ：間隔が1フィート(約0.3m)を越えて4フィート(約1.2m)以下のとき。
③ **APART** ：間隔が4フィート(約1.2m)を越えるとき。

❸ **MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押して確定させる。**

4 バスピークレベルの調整。

サブウーファーを大きな低音出力によるダメージから守るため、低音出力に制限をかけることができます。制限をかけた後はボリュームを上げても低音出力は制限値を越えません。
サブウーファーがOFFの場合は制限された低音が左右のフロントスピーカー出力に加えられます。

❶ **▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って"BASS PEAK"を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使って制限値を-30(dB)から徐々に上げ、テストトーンが歪み始めるところで設定する。**
- テストトーンは、**MULTI CONTROL**つまみまたは、**MULTI** △/▽キーを操作すると出力されます。
- テストトーンは、サブウーファーの再生限界を確認するために大きな音量で再生されます。
- 調整可能範囲は-30(dB)〜0(dB)そしてOFFです。

❸ **MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押して確定させる。**

5 LFEレベルの調整。

❶ ▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って "LFE LEVEL"を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。

❷ MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってLFEレベルを調整する。

- LFE レベルは 0dB からー10dBの範囲で1dBごとに調整できます。

❸ MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押して確定させる。

6 オーディオディレイの調整。

映像機器によっては内部処理によりモニター画面の映像のほうがスピーカーから聞こえる音声より少し遅い場合があります。このような場合はオーディオディレイを調整することにより音声を遅らせて映像と合わせることができます。

❶ ▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って "AUDIO DELAY"を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。

❷ MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってディレイタイムを選ぶ。

- 0ms（ミリ秒）〜200ms（ミリ秒）まで、10msごとに調節できます。
- インプットセレクターでTUNER、PHONOまたは6CH INPUTを選んだとき、もしくはRECモードでAUTOまたはMANUALを選んだときはディレイはかかりません。
- 96kHz fs信号再生時は100msまで効果があります。

❸ MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押して確定させる。

7 ディスプレイモードを選ぶ。

❶ ▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って "DISPLAY MODE" を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。

❷ MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使って表示モードを選択する。

① DISP SELECTOR ：選ばれている入力ソースを表示します。
② DISP LISTEN ：選ばれているリッスンモードまたはTHXのモードを表示します。

❸ MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押して確定させる。

8 設定をロックする。

誤ってキーを押してしまっても，設定が変わらないように設定をロックすることができます。

❶ ▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って "SETTING LOCK" を選び、MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押す。

❷ MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使って表示モードを選択する。

① SETUP LOCKED ：設定をロックする。
② SETUP UNLOCKED ：ロックを解除する。

❸ MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押して確定させる。

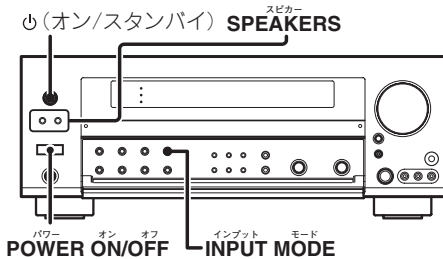
9 SETUPモードを終了する。

❶ ▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷ キーを使って"EXIT"を選ぶ。

❷ MEMORY/ENTERキーまたは、ENTERキーを押すと"7 ディスプレイモードを選ぶ。"で選ばれた表示に戻ります。

再生のしかた

再生をする前に

再生をする前に必要な準備をしておきましょう。

電源の入れかた

❶ 関連機器を接続し、電源をオンにする。

❷ POWER ON/OFFと ⏻ (オン/スタンバイ)キーを押して本機の電源をオンにする。

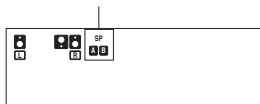
インプットモードの選択

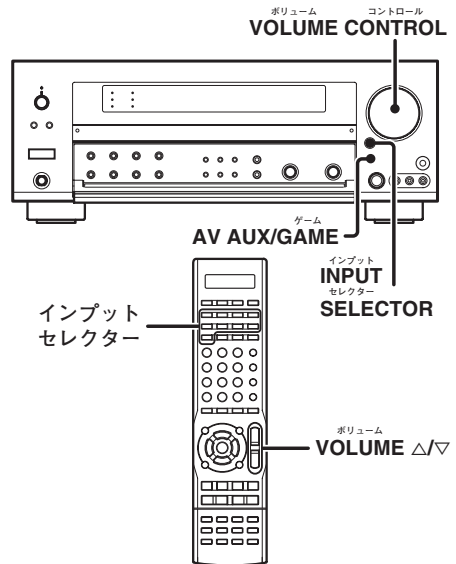
CD/DVD、VIDEO 2、VIDEO 3、またはDVD/6CH端子に接続した機器で再生するときは、インプットモードが接続した機器の再生する音声信号(デジタル入力またはアナログ入力)に合っていることを確認してください。 →12

スピーカーシステムの選択

スピーカーシステムを選択するためSPEAKERS AまたはSPEAKERS Bキーを押してください。

A ON	:	SPEAKERS A端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。
B ON	:	SPEAKERS B端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。
A ON、B ON	:	SPEAKERS AおよびB端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。
OFF	:	スピーカーから音声は出力されません。

使用するスピーカーに対応する表示が点灯します。

- 入力ソースに"DVD/6CH"が選択され、かつインプットモードに"6CH INPUT"が選ばれている場合、スピーカー Aが自動的に選択されます。
- SPEAKERS B出力が選ばれるとリッスンモードはStereoに切り換わります。
- サブウーファーを含むPRE OUT端子から音を出力するにはSPEAKERS Aをオンにしてください。

ソースの再生

1 *インプットセレクターとAV AUX/GAMEキーで聴きたいソースを選ぶ。*

① TUNER(FM/AM放送受信)
② CD/DVD
③ MD/TAPE
④ VIDEO1
⑤ VIDEO2
⑥ VIDEO3
⑦ DVD/6CH
⑧ PHONO
⑨ AV AUX [GAME] (または AV AUX)

2 *選んだソースを再生する。*

3 *VOLUME CONTROLつまみ、またはVOLUME △/▽ キーで音量を調節する。*

本体前面のAV AUX端子の設定をする

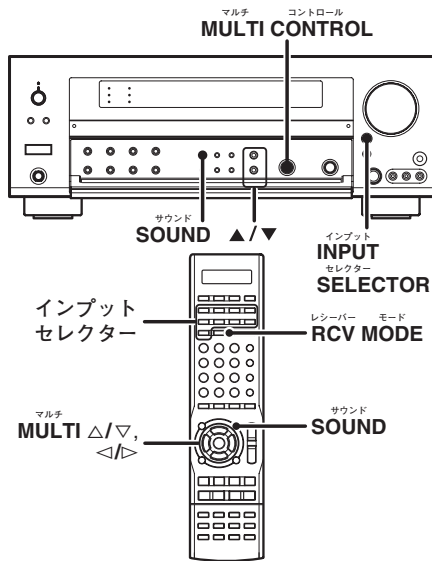
本機でゲーム機器を使用するときの便利な機能の設定をします。

❶ AV AUX/GAMEキーを押してAV AUX [GAME] (またはAV AUX)を選ぶ。

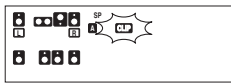
❷ AV AUX/GAMEキーを2秒以上押すたびに以下のように切り換わります。

① AV AUX [GAME]	:	接続したゲーム機器の電源がオンになると、自動的にインプットセレクターを"AV AUX [GAME]"に切り換えます。また、ACTIVE EQ機能が"ACTIVE EQ GAME"になりリッスンモードもゲームに適したモードに切り換わります。
② AV AUX	:	ゲーム機能をオフにします。

- AV AUX端子のVIDEOまたはS-VIDEO端子に映像信号が入力されていない場合は、ゲーム機能ははたらきません。

インプットレベルの調整（アナログ再生時のみ）

インプットレベルの調整（アナログ再生時のみ）

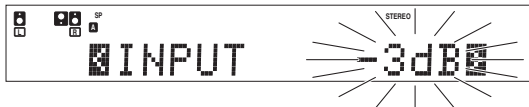
アナログソースから入力されている信号が大きすぎるとき、CLIP表示が点灯します。インプットレベルを調整してください。

SP CLIP

❶ インプットセレクターキーで調整したいソースを選ぶ。

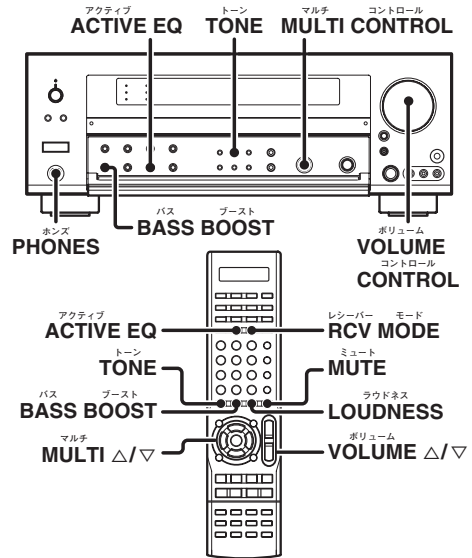
- それぞれの入力ソースに異なる入力レベルを記憶することができます。

❷ リモコンで操作するときは、リモコンのRCV MODEキーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。

❸ SOUNDキーと▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷キーを繰り返し押して "INPUT" 表示にする。

❹ MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってインプットレベルを調整する。

- 調整モードは約20秒間表示されます。
- インプットレベルは 0dB、−3dB、−6dBの3段階で調整できます（初期設定は0dB）。

❺ SOUNDキーを押して、入力表示に戻す。

音の調節のしかた

ACTIVE EQモード

"スピーカーの設定を自動で行う (AUTO SETUP)"を完了すると、スピーカーや部屋の周波数特性に最適なイコライザーカーブが各ACTIVE EQのモードとして設定されます。

❶ リモコンで操作するときは、リモコンのRCV MODEキーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。

❷ ACTIVE EQキーを押して、お好みのモードを選択する。
ACTIVE EQキーを押すと以下のように切り換わります。

① ACTIVE EQ OFF　：ACTIVE EQ機能が解除されます。
② ACTIVE EQ FLAT *　：フラットなスピーカー特性となります。
③ ACTIVE EQ MUSIC　：音楽を聴く際に効果があります。
④ ACTIVE EQ CINEMA：映画を見る際に効果があります。
⑤ ACTIVE EQ GAME　：ゲームを楽しむのに適しています。

*AUTO SETUPを行った後に選択できます。

SP STEREO
ACTIVE EQ FLAT

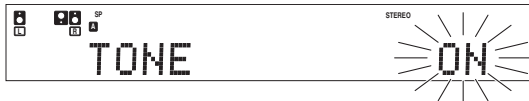
- THXキーを押してTHXモードをオンにすると"ACTIVE EQ FLAT"に切り換わります。その後ACTIVE EQキーを押すと好みのモードに切り換えることができます。
- ACTIVE EQ機能はREC MODEがオンのときには使用できません。

トーンレベルを設定する

トーンレベルは、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつTHXおよびバーチャルモードがオフのときに設定できます。

❶ **リモコンで操作するときは、リモコンのRCV MODEキーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **TONEキーを押して、トーンレベル設定モードにする。**

❸ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってON/OFFを選択する。**

❹ **TONE ONを選択してもう一度TONEキーを押すと、次の順番で切り換わります。**

BASS ：バス(低音)レベルの設定。
TREBLE：トレブル(高音)レベルの設定。

❺ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってトーンレベルを設定する。**

- バスとトレブルのレベルは－10から＋10の範囲で2ステップごとに調節できます。
- 調整項目は約20秒間表示されます。
- スピーカーAのみ効果があります。

ラウドネス機能(リモコンのみ)

ラウドネス機能はボリュームが低いとき有効で、低音と高音のレベルを高くすることで、よりクリアーな音を楽しめます。この機能はPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつTHXおよびバーチャルモードがオフのときに使用できます。

LOUDNESSキーを押してLOUDNESS設定をONにする。
- スピーカーAのみ効果があります。

解除するには

もう一度LOUDNESSキーを押して"LOUDNESS"表示を消灯させます。

バスブースト機能

バスブースト機能は、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつTHXおよびバーチャルモードがオフのときに使用できます。

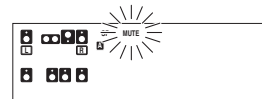
BASS BOOSTキーを押す。
- バス(低音)レベルが最大値(＋10)に設定されます。
- トーンレベル設定モード、または40〜45ページで説明されているモードである場合、BASS BOOSTは使えません。
- スピーカーA側のみ効果があります。

もとの状態にもどすには

もう一度BASS BOOSTキーを押します。

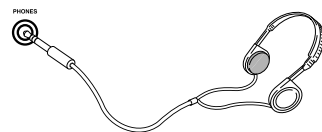
一時的に音を消す

MUTEキーを使ってスピーカーから出る音を消すことができます。

MUTEキーを押す。

解除するには

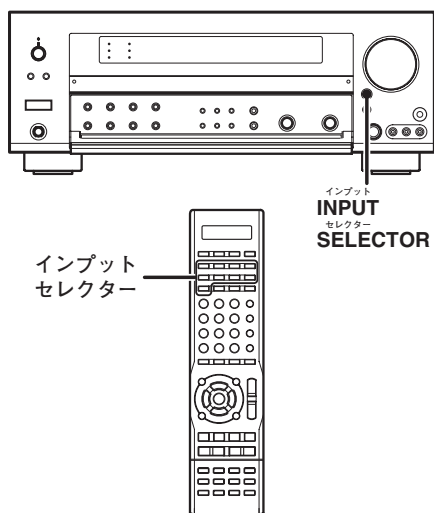
もう一度MUTEキーを押して"MUTE"表示を消灯させます。
- **VOLUME CONTROL**つまみを回した場合、または**VOLUME △/▽**キーを押した場合はMUTEは解除されます。

ヘッドホンで聴く

❶ ヘッドホンを**PHONES**端子につなぐ。

- すべてのスピーカーから音声が出力されなくなります。

❷ **VOLUME CONTROLつまみ、またはVOLUME △/▽キーで音量を調節する。**

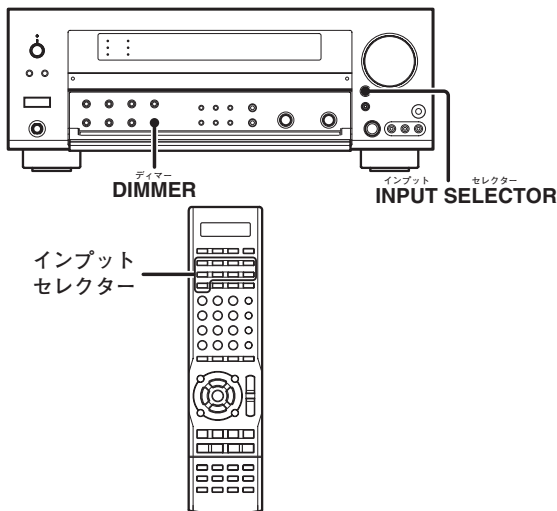
録音（録画）のしかた

録音のしかた（アナログソース）

音楽ソースを録音する

❶ インプットセレクターキーで録音するソース（“MD/TAPE” 以外）を選ぶ。

❷ カセットデッキ、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。

❸ ソースを再生し、録音を開始する。

録音のしかた（デジタルソース）

RECモード AUTO（またはMANUAL）で録音する

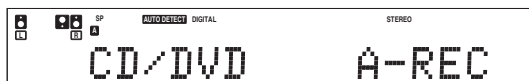
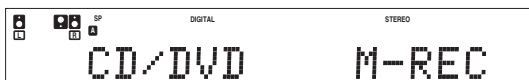
❶ インプットセレクターキーで録音するソース（CD/DVD、DVD/6CH、VIDEO 2、VIDEO 3）を選ぶ。

❷ カセットデッキ、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。

❸ デジタル入力中にDIMMERキーを2秒以上押すたびに以下のように切り換わります。

① RECモードオフ
② RECモード AUTO　：デジタル信号（DTS、ドルビーデジタル、AAC、PCM）を自動的に判別し、ステレオ信号にダウンミックスしてアナログ録音端子（REC OUT）から出力します。
③ RECモード MANUAL：デジタル信号（DTS、ドルビーデジタル、AAC、PCM）をステレオ信号にダウンミックスしてアナログ録音端子（REC OUT）から出力します。
他のデジタル信号に切りかわった場合は出力しません。

REC モード AUTO

↓

REC モード MANUAL

❹ ソースを再生し、録音を開始する。
●音声が出力されないときはDIMMERキーを押します。

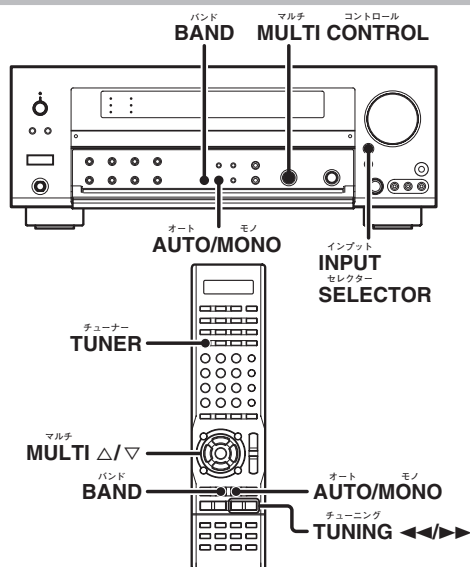
録画のしかた

❶ インプットセレクターキーで録画するソース（“VIDEO 1” 以外）を選ぶ。

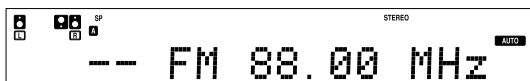
❷ VIDEO 1端子に接続したビデオデッキを録画待機状態にする。
●デジタルソースを録画する場合は次の“録音のしかた（デジタルソース）”を見てください。

❸ ソースを再生し、録画を開始する。
●録画するビデオソースによってはコピープロテクトが働き、録画できないことがあります。 →56

放送局を最大40局まで記憶できます。ワンタッチで受信することもできます。

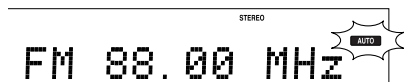
放送を受信する

1 ***INPUT SELECTORキーを使ってTUNERを選ぶ。またはTUNERキーを押す。***

2 ***BANDキーで放送バンドを選ぶ。***

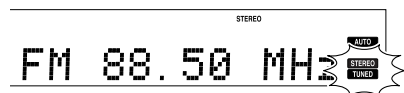
押すたびにバンドが切り換わります。

3 ***AUTO/MONOキーで選局方法を選ぶ。***

押すたびに以下のように選局方法が切り換わります。

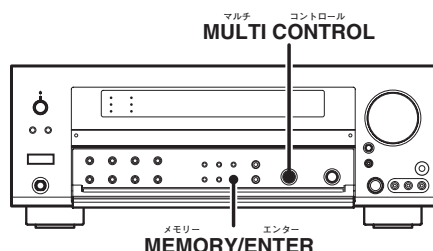
① オート選局　　：(AUTO表示が点灯)
② マニュアル選局：(AUTO表示が消灯)

オート選局にするとAUTO表示が点灯します。

- 通常は、“AUTO”(オート選局)にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局にします。(マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。)

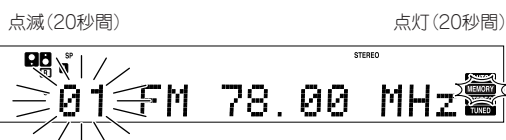
4 ***MULTI CONTROLつまみ、MULTI △/▽ キーまたは、TUNING ◀◀/▶▶キーで放送局を選ぶ。***

ステレオ番組のとき、STEREO表示が点灯します。

受信すると、TUNED表示が点灯します。

オート選局のとき　　：自動的に次の放送局を受信します。
マニュアル選局のとき：受信するまで、MULTI CONTROLつまみを回す、またはMULTI △/▽ キーを押します。

放送局を記憶させる

1 ***記憶させたい放送局を受信する。***

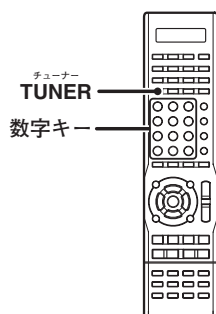
2 ***受信中にMEMORY/ENTERキーを押す。***

点滅(20秒間)　点灯(20秒間)

20秒以内に手順**3**へ進む。
(20秒以上たった場合は、もう一度MEMORY/ENTERキーを押します。)

3 ***MULTI CONTROLつまみまを使って1〜40のプリセット番号を選ぶ。***

4 ***MEMORY/ENTERキーをもう一度押して確定させる。***

- 手順**1**、**2**、**3**、**4**を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

記憶させた放送局を受信する

1 *TUNER(チューナー)キーを押す。*

2 *数字キーで目的の放送局のプリセット番号を押す（最大“40”）。*

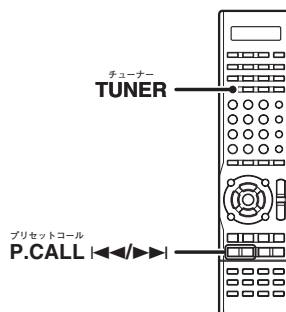
数字キーを押す順序は...

“15” なら　[+10], [5]

“20” なら　[+10], [+10], [0]

- 10の桁を押し間違えたときは、**+10**キーを数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。

記憶させた放送局を順に聴く（P.CALL(プリセットコール)）

1 *TUNER(チューナー)キーを押す。*

2 *P.CALL(プリセットコール) ⏮/⏭キーを使って選局する。*

- キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

P.CALL(プリセットコール) ⏭ キーを押すと次のように切り換わります。

→ 01 → 02 → 03 → ... → ... → 38 → 39 → 40 →（01に戻る）

P.CALL(プリセットコール) ⏮ キーを押すと次のように切り換わります。

01 ← 02 ← 03 ← ... ← ... 38 ← 39 ← 40 ←（01から40に戻る）

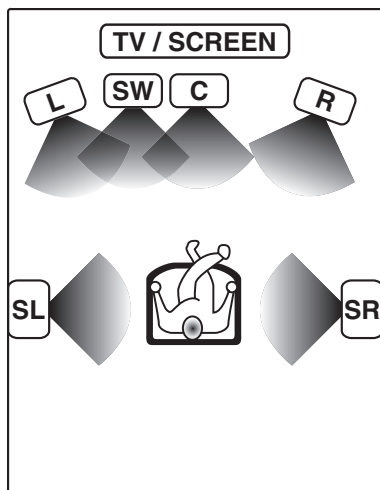
⏭ キーまたは ⏮ キーを押 したままにすると、約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。

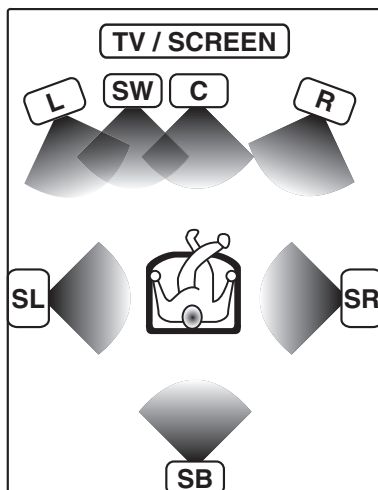
臨場感を楽しむ

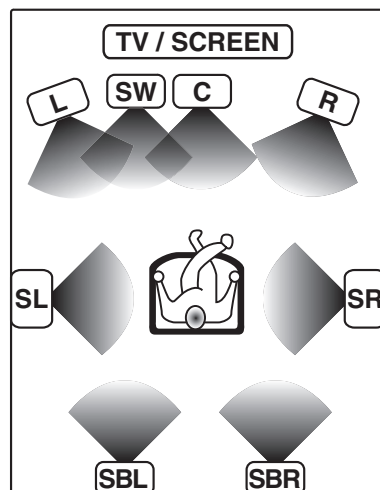
本機のリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。
サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を行ってください。 → 23

サラウンドモードの種類

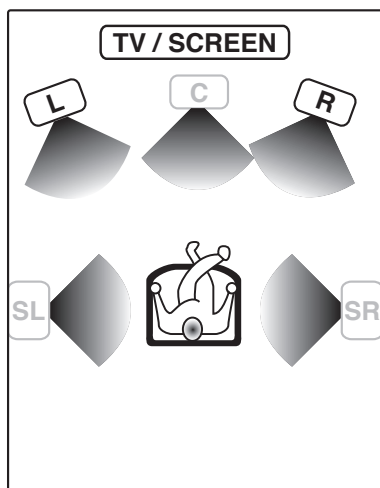
下図は
- Dolby Digital
- Dolby Pro Logic II
- DTS
- DTS 96/24
- DVD 6チャンネル
- AACマルチチャンネルモード

のような5.1チャンネルサラウンドシステムのためのイメージ図です。

下図は
- Dolby Digital EX
- DTS-ES
- THXSurround EX
- Neo:6
- DSPモード

のような6.1チャンネルサラウンドシステムのためのイメージ図です。

下図は
- THX Select2
- Dolby Pro Logic IIx

のような7.1チャンネルサラウンドシステムのためのイメージ図です。

下図は
- Dolby Virtual Speakerモード

のようなフロントスピーカーのみでサラウンド音場を仮想化する場合のイメージ図です。

上記以外のスピーカーシステムを設置している場合でも、Dolby Digital、DTSおよびAACのソースを、そのスピーカーシステムにとって最良の状態でお楽しみいただけます。

L	フロント左スピーカー
SW	サブウーファー
C	センタースピーカー
R	フロント右スピーカー
SL	サラウンド左スピーカー
SR	サラウンド右スピーカー
SB	サラウンドバックスピーカー
SBL	サラウンドバック左スピーカー
SBR	サラウンドバック右スピーカー

Dolby Digital

ドルビーデジタルサラウンドモードでは、ドルビーデジタルプログラムソース(DOLBY DIGITALマークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど)からの5. 1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビーデジタルモードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミックレンジの面で、はるかに優れた効果を演出します。

Dolby Digital EX

Dolby Digital EXはDolby Digitalの延長線上の技術です。Dolby Digital EXは6.1チャンネルのソースから各チャンネルが音声帯域全体をカバーする6つの出力チャンネルを再生します。これはマトリクスデコーダーを使い2つのサラウンドチャンネルから3つのサラウンドチャンネルをとりだすことにより実現されます。各サラウンドチャンネルはサラウンドレフト、サラウンドライトおよびサラウンドバックでそれぞれのスピーカー群を駆動します。背後にサラウンドバックスピーカーを置くことを想像してみて下さい。これにより音に包まれる、または飛び回る音を再現することができ、より自然な音響効果を楽しむことができます。Dolby Digital EXはDolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックの再生に適しています。Dolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックはDolby Digital EXを作動させるためのフラッグ(符合)もあわせて録音されていますが、2001年以前に発売されたCD,DVDまたはLDはこのフラッグが録音されていないため手動でリッスンモードを設定しなければならないものもあります。

ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“**LFE**”表示が点灯します。

Dolby Pro Logic II x とDolby Pro Logic II

この新しいサラウンドシステムは、特に空間的な広がりや指向性、音の明瞭さに重点をおいて設計されています(DOLBY SURROUNDマークのあるビデオやレーザーディスクソフト等)。すぐれたフィードバックロジック設計を内蔵し、サラウンドやステレオのマトリックスデコーディング、全帯域サラウンド出力が特長です。特にPro Logic IIxでは従来のステレオまたは5.1チャンネルに2つのサラウンドバックチャンネルを加えることにより、これまでにないほど自然に包み込まれるような臨場感あふれるサラウンドサウンドを体験することができます。特に7.1チャンネルを選択した場合は、後方においてより定位感のあるサラウンド効果を楽しむことができます。
本機にプログラムされているPro Logic IIxモードはMovie、Music、Gameの3種類です。Pro Logic IIモードは、Movie、Music、Game、Pro Logicの4種類です。Movieモードは映画に、Musicモードは音楽再生に、Gameモードはゲームを楽しむ際に適するよう、計算された質の高いサラウンドサウンドを再生するプログラムがなされています。特にGameモードでは、フロントとセンターからの低音のみならずサラウンドチャンネルからの低音もサブウーファーに加えられ、よりダイナミックなサラウンド効果が得られます。

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。

Dolby VIrtual Speaker

Dolby Virtual Speakerは、サラウンド音場を仮想化します。お部屋にマルチスピーカーを設置したような効果を実現します。

Dolby Headphone

ヘッドホンで音楽を聴くと、左の音であれば直接左の耳だけでそれを聞くことになり、たとえば前方に音像があるようには聞こえません。Dolby Headphoneでは、仮想的なルームシミュレーションを行い、その音響特性を左右のヘッドホン信号に畳みこんでいます。スピーカーで聴く場合と同質の成分を左右の耳で聞くことにより、あたかも前方に音源があるように感じるのです。

Pro Logic II Movieモード時にDolby Headphoneを選択したときと、Pro Logic II Gameモード時にDolby Headphoneを選択したときは、本機内部の処理が同じために効果も同じになります。

DTS

DTSは新しいサラウンド方式で、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。dts DIGITAL SURROUNDマークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5. 1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音の厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサラウンドが特長です。

DTS-ES

DTS-ES (Extended Surround) は従来の5.1chのサラウンドを発展させ、サラウンドバックチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したサラウンドバックを持つ DTS-ES Discrete 6.1 とマトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたサラウンドバックを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたサラウンドバックチャンネルによる6.1chサラウンド再生は後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。DTS-ES 技術を使って記録されたプログラムソースには Discrete と Matrix のモードを動作させる情報もあわせて記録されていて、この製品は自動的にモードを選択します。

Neo:6

Neo:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。Neo:6には映画を楽しむための "Cinema" モードと音楽を楽しむための "Music" モードの2つのモードがあります。

DTS 96/24

DTS 96/24はサンプリング周波数を96kHzに上げることにより、48kHzにも及ぶ広い周波数帯域を可能としています。
また、最高で24bitの分解能を有し、DVDビデオのオリジナル･マスター同等の96kHz/24bitの広大なダイナミックレンジを実現しています。
同時に、これまでのDTSサラウンドシステム同様、マルチチャンネルに対応しており、DTS 96/24で録音されたDVDやCDでは広い周波数帯域、ダイナミックレンジでマルチチャンネルを楽しむことができます。

DTSには ".1" または LFE チャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“**LFE**”表示が点灯します。

THX

THXは世界的に名高いフィルム制作会社であるLucasfilm Ltdによって確立された独自の規格と技術です。THXは映画館でもホームシアターでも、映画監督の意図したサウンドトラックを可能な限り忠実に再現したいというジョージルーカスの個人的な願望のもとに開発されました。
映画のサウンドトラックはダビングステージと呼ばれる特別な映画館で、同じような装置および環境の映画館で再生されることを目的としてミキシングされます。同じサウンドトラックがLD、ビデオテープ、DVD等に録音されますが、ホームシアター環境に適するように変更されていません。
THXの技術者はホームシアターで発生する音色および空間的な差異を最小にすることで、映画館でのサウンドを正確にホームシアターで再現できる技術を開発し、特許をとりました。映画館で再生することを意図とした映画を見ている場合はTHXを起動して下さい。本機のTHX表示が点灯すると、次のTHXの機能が自動的にCinema Mode(例:THX Cinema、THX Surround EX)に付加されます。

Re-Equalization (Re-EQ)
映画のサウンドトラックは広い映画館で専用のシステムを使って再生する目的で録音されているため、家庭用の機器で再生すると耳障りになります。Re-Equalizationは、ご家庭で映画のサウンドトラックを楽しむときに、この耳障りな音を調整し、ご家庭の環境に合わせます。

Timbre Matching
人の耳は、音のくる方向によって音に対する知覚が変わります。映画館では多数のサラウンドスピーカーを使っているので音に包まれますが、ホームシアターでは2台のサラウンドスピーカーしかありません。Timbre Matching機能はサラウンドスピーカーに送られる信号にフィルターをかけ、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの音色特性を合わせることにより、フロントスピーカーからサラウンドスピーカーへの音の動きをスムーズにします。

Adaptive Decorrelation
映画館では多数のサラウンドスピーカーによって音に包まれる体験ができますが、ホームシアターでは通常2台のサラウンドスピーカーしかありません。2台のサラウンドスピーカーでは音はヘッドフォーンで聴くように聞こえ、音の広がり、および音に包まれることはできません。サラウンドスピーカーからの音はサラウンドスピーカー間の中間位置から離れると、近くのスピーカーの音に吸収されてしまい聞き分けることができなくなります。Adaptive Decorrelationは他のサラウンドチャンネルの音との時間軸と位相を少し変化させます。これにより聴く位置が広がり、2台のサラウンドスピーカーで映画館と同じような音の広がりを楽しめます。

THX Select2
THX Select2のロゴが付いている全てのホームシアター用の機器は、上記のすべての機能を備え、厳格な品質検査および性能検査を受けています。検査は高品質を維持するためにデジタルおよびアナログ領域の数百の項目に渡り、お客様がTHX Select2のロゴが付いている機器を購入後の長い期間に渡りその性能を保証します。このようにTHX Select2のロゴが付いている機器はプリアンプ、パワーアンプを含む、広範囲にわたる厳格な検査を受けています。

ASA (Advanced Speaker Array)

ASAは最適なサラウンドサウンドのために、2つのサラウンドスピーカーと2つのサラウンドバックスピーカーからのサウンドを処理するTHX独自の技術です。8個のスピーカー(左右のフロントスピーカー、センタースピーカー、左右のサラウンドスピーカー、左右のサラウンドバックスピーカー、サブウーファー)を使ってホームシアターシステムをセットアップする際に、2個のサラウンドバックスピーカーを近接して部屋の前方に向けて配置すると、広いスイートスポットを持ったリスニングポジションを得ることができます。現実的に2個のサラウンドバックスピーカーを離して置かざるを得ない場合は、サラウンドバックスピーカーの間隔の設定で実際のスピーカーの距離に最も近いモードを選ぶことにより、最適に処理されたサラウンドサウンド空間を得ることができます。
ASAの技術はTHX Select2 Cinema、THX MusicMode、THX Games Modeの３つのモードで使用されています。

THX Select2 Cinema mode.
THX Select2 Cinema modeでは8個のスピーカーを使って5.1チャンネルの映画ソースを再生するのに最適なモードです。このモードではASAはサラウンドスピーカーからとサラウンドバックスピーカーからの音を調合し、広がり感としっかりした定位感をもったサラウンド空間を作り出すよう処理を行います。
DTS-ES(Matrixと6.1 Discrete)とDolby Digital Surround EXでエンコードされたサウンドトラックに認識信号が含まれる場合は、自動的に検出されます。
Dolby Digital Surround EXでエンコードされたサウンドトラックにはこの自動検出用の認識信号が含まれていないものが存在します。Surround EXでエンコードされたものであれば手動でTHX Surround EX再生モードに切り換えます。Surround EXでエンコードされていない場合は、THX Select2 Cinema modeはASA処理を行い、最適な音場効果を提供します。

THX MusicMode.
マルチチャンネルの音楽ソースを再生する場合は、THX MusicModeを選びます。このモードではTHX ASAは5.1チャンネルでエンコードされたDTS、Dolby Digital、DVDオーディオのような音楽ソースのサラウンドチャンネルに処理を行うことで、広がり感のあるしっかりした後方の音場効果を得ることができます。

THX Games Mode.
ステレオやマルチチャンネルのゲームソースを再生する場合は、THX Games Modeを選びます。このモードではTHX ASAはステレオまたは5.1チャンネルでエンコードされたアナログ、PCM、DTS、Dolby Digitalのようなゲームソースのサラウンドチャンネルに処理を行います。ゲームオーディオの背景の音の効果はそのままに、360度の広がりをもった音場効果を得ることができます。THX Games Modeはサラウンド空間のどこにいてもスムースな音のつながりを得ることができる独特のモードです。

THX Surround EX

THX Surround EX-Dolby Digital Surround EXはドルビーラボラトリーとルーカスフィルムのTHX部門が共同で開発した技術です。
映画館ではDolby Digital Surround EX技術を使いミキシングの際に追加されたチャンネルを再生することができます。このチャンネルはサラウンドバックと呼ばれ、現在の左右およびセンターのフロントスピーカー、左右のサラウンドスピーカーおよびサブウーファーチャンネルに加えて、サウンドトラックを楽しむ人の後ろにスピーカーを置きます。この追加されたチャンネルはサウンドトラックを聞く人に、より繊細な後方サウンドイメージを与えることができ、以前に経験したことが無いような深く、広がりのあるサウンドを楽しむことができます。
Dolby Digital Surround EX技術を使って制作された映画が一般消費者市場で販売される場合にはDolby Digital Surround EXのロゴがパッケージに付いています。この技術を使って制作された映画の一覧表はドルビーラボラトリーのウェブサイトhttp://www.dolby.comで見ることができます。
THX Surround EXのロゴの付いているA/Vレシーバー、およびコントローラーだけがTHX Surround EXモードで、この新技術を家庭で忠実に再生することができます。
本機はDolby Digital Surround EXでエンコードされていない5.1チャンネルのサウンドをTHX Surround EXモードで再生することができます。このような場合は、サラウンドバックチャンネルは再生するプログラムに左右され、サウンドトラック、または個人差によりあまり好ましくないサウンドになることがあります。

AACマルチチャンネルモード

デジタル放送のマルチチャンネル音声フォーマットであるAAC方式(Advanced Audio Coding)に対応。デジタル放送で配信されるマルチチャンネルの映画などを最大5.1チャンネルの臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

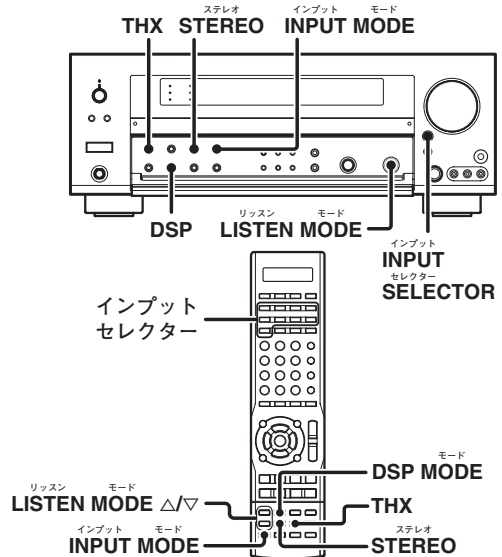
DSPモード

DSP(デジタルシグナルプロセッサ)サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。通常音質は周囲の環境、特に残響音によって左右されます。DSPモードは入力ソースに、その音質をそこなわず、コンサートホールなどの残響音を加えるものです。CDプレーヤやテレビ、FMラジオなどのステレオ信号を入力しているときに有効です。
コンサートやスポーツなどをよりいっそうお楽しみいただけます。

DVD 6 チャンネル

6(5.1)チャンネル出力を持つDVDプレーヤ等の機器を本機に接続することにより、マルチチャンネルでエンコードされたDVD等のソースを最大5.1チャンネルでのサラウンド再生を楽しむことができます。独立したデジタルの各チャンネルを個々に入力することにより、広帯域で広ダイナミックレンジの質の高い音を再生することができます。

サラウンド再生

DTSリッスンモードはDTSマークの付いたCD、DVDまたはLDのサウンドソースを再生するときに使います。Dolby Digitalリッスンモードは DOLBY DIGITAL マークの付いたDVDまたはLDの再生およびドルビーデジタルフォーマットのデジタル信号を再生するときに使います。Dolby Pro Logicリッスンモードは DOLBY SURROUND マークの付いたビデオDVDまたはLDを再生する時に使用できます。AACリッスンモードはデジタル放送のAACデジタル信号を再生するときに使います。

準備しましょう

- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする。 →23
- **インプットセレクター**キーで再生したい入力ソースを選ぶ。
- **INPUT MODE**キーで、再生したいソースのインプットモード(アナログまたはデジタル)を選ぶ。 →12

ご注意

- インプットモードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズがでることがあります。

1 ビデオソフトなどを再生する。

2 THXモードを選ぶ。

THXモードでは、THX技術によりサラウンドチャンネルの音場、臨場感を改善し家庭で映画館でのサウンドを再現します。

THXキーを押して以下の設定を選択する。

① **THX OFF** ：THXモードをOFFにします。
② **THX Selec2 Cin**：映画を見る際に効果があります。
③ **THX MusicMode**：音楽を聴く際に効果があります。
④ **THX Games** ：ゲームを楽しむのに効果があります。
⑤ **THX Cinema** ：映画を見る際に効果があります。

- THX機能が動作していることは**THX**表示がディスプレイ内で点灯することで確認できます。
- THX設定はインプットセレクターごとに個別に設定できます。

3 LISTEN MODEつまみまたはLISTEN MODE ▲/▼キーでリッスンモードを選ぶ。

リッスンモードの設定は、それぞれの入力で独立して記憶しています。インプットモードがフルオートに設定されていると(**AUTO DETECT**表示が点灯)、入力信号のタ

イプやスピーカー設定の内容に合うリッスンモードが自動的に選ばれます。

LISTEN MODEつまみを回すたびに、またはLISTEN MODE ▲/▼キーを押すたびに以下のように設定がかわります。

このとき、以下のリッスンモードの中から、現在の入力信号の種類やスピーカーの設定で再生できるモードのみが選べます。

Dolby Digital Surround EX対応ディスクについて:

Dolby Digital Surround EX対応ディスクには識別信号が記録されています。本機のインプットモードの設定(→12)で**FULL AUTO**を選んだときには、そのディスクの識別信号によりリッスンモードをその信号に最適なモードに切り換えて再生します。まれに対応ディスクであっても、この識別信号が記録されていないディスクがあります。そのときは6.1または7.1チャンネルのお好きなリッスンモードに切り換えてください。

Dolby DigitalまたはDolby Digital EX信号を入力しているとき:

① DD D+THX Cinema　: Dolby Digital+THX Cinema*1
② DD D+THX Surround EX　: Dolby Digital+THX Surround EX*1
③ DD D+PLIIx Movie+THX Cinema　: Dolby Digital+Pro Logic IIx Movieモード+THX Cinema*1
④ PLIIx Movie+THX Cinema　: Pro Logic IIx Movieモード+THX Cinema*1
⑤ Pro Logic+THX Cinema　: Pro Logic+THX Cinema*1
⑥ Stereo+THX Cinema　: ステレオ+THX Cinema*1
⑦ DD D+THX Games　: Dolby Digital+THX Games*2
⑧ 2.0 THX Games　: Dolby Digital(2チャンネル信号)+2.0 THX Games*2
⑨ DD D+THX MusicMode　: Dolby Digital+THX MusicMode*3
⑩ DD D+THX Select2 Cinema　: Dolby Digital+THX Select2 Cinema*4
⑪ Dolby Digital　: Dolby Digital*5
⑫ Dolby D EX　: Dolby Digital EX*5
⑬ DD D+PLIIx Movie　: Dolby Digital + Pro Logic IIx Movieモード*5
⑭ DD D+PLIIx Music　: Dolby Digital + Pro Logic IIx Musicモード*5
⑮ PLIIx Movie　: Pro Logic IIx Movieモード*5
⑯ PLIIx Music　: Pro Logic IIx Musicモード*5
⑰ PLIIx Game　: Pro Logic IIx Gameモード*5
⑱ PLII Movie　: Pro Logic II Movieモード*5
⑲ PLII Music　: Pro Logic II Musicモード*5
⑳ PLII Game　: Pro Logic II Gameモード*5
㉑ Pro Logic　: Pro Logic*5
㉒ Stereo　: ステレオ*5

Dolby Digitalを選んだとき
Dolby Digitalの文字が表示されます。

SP A AUTO DETECT DIGITAL DOLBY DIGITAL
L C R LFE SL SR
Dolby Digital

DTSまたはDTS-ES(マトリクスまたはディスクリート)信号を入力しているとき:

① DTS+Neo:6+THX Cinema　: DTS+Neo:6 Cinema+THX Cinema*1
② DTS-ES Matrix 6.1+THX Cinema　: DTS-ES Matrix 6.1+THX Cinema*1
③ DTS-ES Discrete 6.1+THX Cinema　: DTS-ES Discrete 6.1+THX Cinema*1
④ DTS+THX Cinema　: DTS+THX Cinema*1
⑤ DTS 96/24+THX Cinema　: DTS 96/24+THX Cinema*1
⑥ Stereo+THX Cinema　: ステレオ+THX Cinema*1
⑦ Neo:6 Cinema+THX Cinema　: Neo:6 Cinema+THX Cinema*1
⑧ DTS+THX Games　: DTS+THX Games*2
⑨ 2.0 THX Games　: DTS(2チャンネル信号)+2.0 THX Games*2
⑩ DTS 96/24+THX Games　: DTS 96/24+THX Games*2
⑪ DTS+THX MusicMode　: DTS+THX MusicMode*3
⑫ DTS 96/24+THX MusicMode　: DTS 96/24+THX MusicMode*3
⑬ DTS+THX Select2 Cinema　: DTS+THX Select2 Cinema*4
⑭ DTS 96/24+THX Select2 Cinema　: DTS 96/24+THX Select2 Cinema*4
⑮ DTS-ES Mtrx 6.1　: DTS-ES Matrix 6.1*5
⑯ DTS-ES Dscrt 6.1　: DTS-ES Discrete 6.1*5
⑰ DTS　: DTS*5
⑱ DTS+Neo:6 Cin　: DTS+Neo:6 Cinema*5
⑲ Neo:6 Cinema　: Neo:6 Cinema*5
⑳ Neo:6 Music　: Neo:6 Music*5
㉑ DTS 96/24　: DTS 96/24*5
㉒ Stereo　: ステレオ*5

AAC信号を入力しているとき:

① AAC+THX Cinema　: AAC+THX Cinema*1
② AAC+THX Surround EX　: AAC+THX Surround EX*1
③ AAC+PLIIx Movie+THX Cinema　: AAC+Pro Logic IIx Movieモード+THX Cinema*1
④ PLIIx Movie+THX Cinema　: Pro Logic IIx Movieモード+THX Cinema*1
⑤ Pro Logic+THX Cinema　: Pro Logic+THX Cinema*1
⑥ Neo:6 Cinema+THX Cinema　: Neo:6 Cinema+THX Cinema*1
⑦ Stereo+THX Cinema　: ステレオ+THX Cinema*1
⑧ AAC+THX Games　: AAC+THX Games*2
⑨ 2.0 THX Games　: AAC(2チャンネル信号)+2.0 THX Games*2
⑩ AAC+THX MusicMode　: AAC+THX MusicMode*3
⑪ AAC+THX Select2 Cinema　: AAC+THX Select2 Cinema*4
⑫ AAC　: AAC*5
⑬ AAC+Dolby EX　: AAC+Dolby Digital Surround EX*5
⑭ PLIIx Movie　: Pro Logic IIx Movieモード*5
⑮ PLIIx Music　: Pro Logic IIx Musicモード*5
⑯ PLIIx Game　: Pro Logic IIx Gameモード*5
⑰ PLII Movie　: Pro Logic II Movieモード*5
⑱ PLII Music　: Pro Logic II Musicモード*5
⑲ PLII Game　: Pro Logic II Gameモード*5
⑳ Pro Logic　: Pro Logic*5
㉑ Neo:6 Cinema　: Neo:6 Cinema*5
㉒ Neo:6 Music　: Neo:6 Music*5
㉓ Stereo　: ステレオ*5

AACを選んだとき、二重音声放送の主音声/副音声の切り換えは、"主音声/副音声の切り換え"をご覧ください。→45

Dolby Digital、DTSまたはAAC以外のデジタル信号またはアナログ信号のとき:

① PLII Movie+THX Cinema　: Pro Logic II Movieモード+THX Cinema*1
② Pro Logic+THX Cinema　: Pro Logic+THX Cinema*1
③ Neo:6 Cinema+THX Cinema　: Neo:6 Cinema+THX Cinema*1
④ Stereo+THX Cinema　: ステレオ+THX Cinema*1
⑤ 2.0 THX Games　: 2.0 THX Games*2
⑥ PLIIx Movie　: Pro Logic IIx Movieモード*5
⑦ PLIIx Music　: Pro Logic IIx Musicモード*5

⑧ PLIIx Game　　：Pro Logic IIx Gameモード*5
⑨ PLII Movie　　：Pro Logic II Movieモード*5
⑩ PLII Music　　：Pro Logic II Musicモード*5
⑪ PLII Game　　：Pro Logic II Gameモード*5
⑫ Pro Logic　　：Pro Logic*5
⑬ Neo:6 Cinema　　：Neo:6 Cinema*5
⑭ Neo:6 Music　　：Neo:6 Music*5
⑮ Stereo　　：ステレオ*5

- *1 **"THX Cinema"**を選んだときのみ選択できます。
  *2 **"THX Games"**を選んだときのみ選択できます。
  *3 **"THX MusicMod"**を選んだときのみ選択できます。
  *4 **"THX Select2 Cin"**を選んだときのみ選択できます。
  *5 **"THX Off"**を選んだときのみ選択できます。
- Dolby Digital、DTSやAAC信号で、現在のスピーカー設定以上のチャンネル数が入力された場合は、自動的にダウンミキシング機能が働き、現在の設定に合わされます。

4 音量を調節する。

DSPモード

Dolby Digital、DTSまたはAAC以外のデジタル信号またはアナログ信号のときに選択できます。THXモードがオフのときに選択できます。

❶ DSPまたはDSP MODEキーを押すと現在のDSP MODEの設定が表示されます。

❷ キーを押すたびに以下のように切り換わります。

① Arena　　：Arenaモード。
② Jazz Club　　：Jazz Clubモード。
③ Theater　　：Theaterモード。
④ Stadium　　：Stadiumモード。
⑤ Disco　　：Discoモード。

- DSPモード選択は約3秒間表示されます。

リッスンモードを一時的にStereoモードにするには

STEREOキーを押すと、現在選択されているリッスンモードをStereoモードに切り換えることができます。もう1回押すと、元のリッスンモードに戻ります。

- 電源を切り再び電源をオンにしたとき、またはセレクタを切り換えて元のセレクタに戻した時も、元のリッスンモードに戻ります。

ご注意

- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないモードがあります。
- サラウンド効果がうまく得られない場合や、お好みのモードが選べない場合は、スピーカーの設定、インプットモードの設定をご確認ください。
- **Dialogue Normalization (Dial Norm)**はドルビーデジタルの特徴で、自動的にサラウンドサウンド全体のレベルを一定に保ちます。

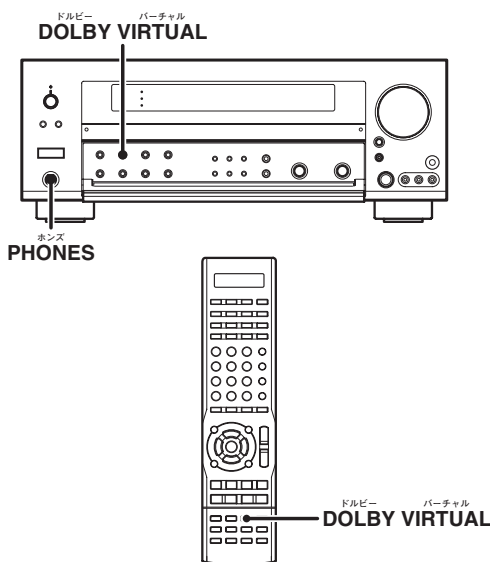
SP AUTO DETECT DIGITAL DOLBY DIGITAL
DIALNORM OFFSET

Dolby Digitalのソースの中には再生中に"DIALNORM OFFSET xxdB"のメッセージが表示されるものがあります。これはサウンドトラックが通常のレベルより高く（低く）録音されていることを表し、xxがその程度を示します。
例として、"DIALNORM OFFSET +4dB"が表示された場合は、再生レベルが通常より4dB高いことを示します。再生レベルを通常のレベルにしたいときはボリュームレベルを4dB下げてください。

バーチャルモード

お使いのスピーカーが2つのときやヘッドホンをお使いのときでも臨場感あふれるサウンドを楽しむことができます。

- Dolby Virtual Speaker モード、Dolby Headphone モードでは再生する信号によってはご希望のリッスンモードを選択できない場合があります。

→40

Dolby Virtual Speaker モードの設定（ヘッドホンを使用しないとき）
DOLBY VIRTUAL キーを押すと以下のように切り換わります。

① **DOLBY VS WIDE**　：仮想化したサラウンド効果に、さらに広がりと空間をもたせることができます。（**DOLBY VS**表示が点灯）
② **DOLBY VS REF**　：標準的な設定です。*（**DOLBY VS**表示が点灯）
③ **DOLBY VS OFF**　：解除。（**DOLBY VS**表示が消灯）

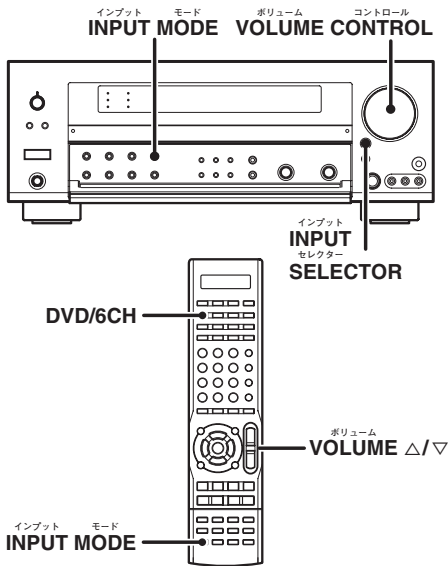
* サラウンドスピーカーの設定がオフの時のみ選ぶことができます。

Dolby Headphone モードの設定（ヘッドホンを使用するとき）
DOLBY VIRTUAL キーを押すと以下のように切り換わります。

① **DOLBY H DH 1**　：残響音の少ないスタジオのモニター。（**DOLBY H**表示が点灯）
② **DOLBY H DH 2**　：適度な残響音のある一般的なリスニングルーム。（**DOLBY H**表示が点灯）
③ **DOLBY H DH 3**　：映画館のような広い空間。（**DOLBY H**表示が点灯）
④ **DOLBY H OFF**　：解除。（**DOLBY H**表示が消灯）

- Dolby Virtual Speakerモードは**SPEAKERS A**がオンで**SPEAKERS B**がオフの時のみはたらきます。
- Dolby Virtual Speakerはサンプリング周波数が32kHz、44.1kHzおよび48kHzのときに有効です。
  Dolby Headphoneはサンプリング周波数が44.1kHzおよび48kHzのときに有効です。

DVD 6チャンネル

6(5.1)チャンネル出力を持つDVDプレーヤーを使って、サラウンドサウンド再生を楽しむことができます。

準備しましょう

- お手持ちのDVDプレーヤーを**DVD/6CH INPUT**端子に接続する。 →13
- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする。 →23

1 ***INPUT SELECTOR キーまたはDVD/6CHキーを押して入力ソースとしてDVD/6CHキーを選ぶ。***

2 ***INPUT MODEキーで "6CH INPUT" を選ぶ。***

- "6CH INPUT"を選んだときにスピーカーBが選ばれているときは自動的にスピーカーBをオフにし、スピーカーAがオンになります。
- DVD 6チャンネルモードが選ばれているときは、ディスプレイに"**6CH INPUT**" が点灯します。

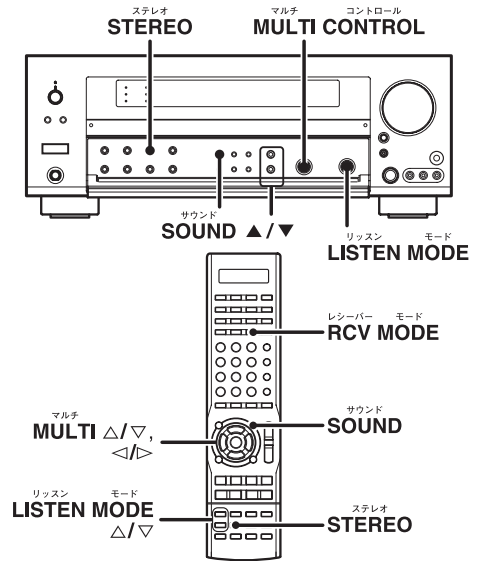
3 ***DVDプレーヤーを再生する。***

4 ***音量を調節する。***

ご注意

- INPUT MODEが6CH INPUTモードになっていると、各キー(**SETUP、SOUND、LISTEN MODE、ACTIVE EQ、THX、STEREO、DSP MODE、LOUDNESS、TONE**)を操作することはできません(27ページで調節した各スピーカーの音量レベルは適応されません)。各スピーカーの音量はDVDプレーヤーで調節してください。アンプ内蔵サブウーファーの音量はサブウーファーについている音量調節つまみで調節してください。

音を調整するには

再生中にお好みで音を調整することができます。

❶ **リモコンで操作するときは、リモコンのRCV MODEキーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **SOUNDキーを押し、要求項目が表示されるまで▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷キーを繰り返し押す。**

▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷キーを押すたびに次のように切り換わります。このとき、モードによっては表示されない項目があります。

① **CNTR**(センタースピーカーレベルの調整)*
② **SR**(サラウンド右スピーカーレベルの調整)*
③ **SB**(サラウンドバックスピーカーレベルの調整)*
④ **SBR**(サラウンドバック右スピーカーレベルの調整)*
⑤ **SBL**(サラウンドバック左スピーカーレベルの調整)*
⑥ **SL**(サラウンド左スピーカーレベルの調整)*
⑦ **SUBW**(サブウーファーレベルの調整)*
⑧ **INPUT**(インプットレベルの調整:アナログモードのみ) →32
⑨ **MIDNIGHT**(ミッドナイトモードのオン/オフ:ドルビーデジタルおよびDTSモードのみ)
⑩ **PANORAMA**(パノラマモードのオン/オフ)**
⑪ **DIMENSION**(ディメンション調節)**
⑫ **CENTER WIDTH**(センター幅調節)**
⑬ **CENTER IMAGE**(センターイメージ調節:Neo:6 Musicモードのみ)**
⑭ **DUAL MONO**
(主音声/副音声/主+副音声/Stereoの選択)***

* SOUND モードでの設定は一時的な設定です。電源のオン/オフで、最初の"スピーカーの設定をする"で設定した値に自動的に戻ります。
** Pro Logic IIx と Pro Logic II のMusic モードのみ。
*** AACモードとDolby Digitalのみ。

- 手順 **1** で**"SB NML/THXx1"**または**"SB LARGEx1"**を選んだときはディスプレイに"SBL"と"SBR"は表示されず、"SB"が表示されます。 →27

❸ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってレベルの調節や設定をする。**

- 調整項目は約20秒間表示されます。

❹ **SOUNDキーを押して、入力表示に戻す。**

ミッドナイトモード（Dolby DigitalおよびDTSモードのみ）

夜中に映画を見るときなど、音量をあまり上げられないことがあります。このミッドナイトモードを選ぶと、Dolby DigitalおよびDTSの映像ソフトであらかじめ指定されている部分（急に音量が大きくなるシーンなど）だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。

❶ **SOUNDキーを押し、"MIDNIGHT" が表示されるまで▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷キーを繰り返し押す。**

- CD/DVD、DVD/6CH, VIDEO 2またはVIDEO 3 の入力で、リッスンモードがDolby DigitalまたはDTSのときのみ選べます。

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってON/OFFを選ぶ。**

- 調整項目は約20秒間表示されます。
- Dolby DigitalまたはDTSの映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。

❸ **SOUNDキーを押して、入力表示に戻す。**

PANORAMAモード（Pro Logic IIx と Pro Logic II のMusicモードのみ）

PANORAMA モードを使って、「音に包まれる」感覚を楽しめます。

❶ **SOUNDキーを押し、"PANORAMA" が表示されるまで▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷キーを繰り返し押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使ってPANORAMA ONまたはOFFを選ぶ。**

① **PANORAMA ON** ：パノラマモードがONになる。
② **PANORAMA OFF**：パノラマモードがOFFになる。

❸ **SOUNDキーを押して、入力表示に戻す。**

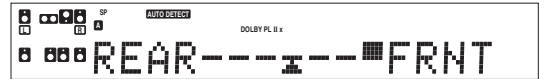
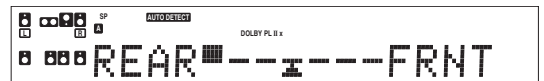
DIMENSIONモード（Pro Logic IIx と Pro Logic II のMusicモードのみ）

DIMENSION モードの調節で、全スピーカーのバランスを好みに合わせてかえることができます。

❶ **SOUNDキーを押し、"DIMENSION"が表示されるまで▲/▼キーまたは、MULTI △/▽ キーを繰り返し押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使って音場を前後に調節する。**

音場が前寄りになる

↓

音場が後ろ寄りになる

❸ **SOUNDキーを押して、入力表示に戻す。**

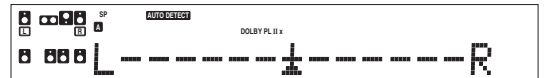
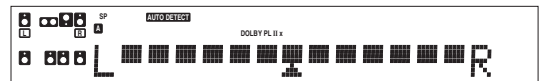
CENTER WIDTHモード（Pro Logic IIx と Pro Logic II のMusicモードのみ）

CENTER WIDTH設定モードを使ってセンターチャンネルの出力信号を左右のフロントスピーカーに振り分けることができ、広がりのある音を楽しむことができます。

❶ **SOUNDキーを押し、"CENTER WIDTH"が表示されるまで▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷キーを繰り返し押す。**

- CENTER WIDTH表示が表示窓に流れます。
- センタースピーカーがオフのとき、この機能は働きません。

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使って左右およびセンタースピーカーの出力を調節する。**

センター成分がセンタースピーカーからのみ聞こえる

センター成分が左右スピーカーからのみ聞こえる

- センター成分の再生方法を、センタースピーカーのみの再生からフロントスピーカーのみの再生の間で調節できます。

❸ **SOUNDキーを押して、入力表示に戻す。**

CENTER IMAGEモード
（Neo:6 Musicモードのみ）

CENTER IMAGE設定モードでは、センターチャンネルの出力信号を調節し。センターを強調することができます。

❶ **SOUNDキーを押し、“CENTER IMAGE”が表示されるまで▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷キーを繰り返し押す。**

- センタースピーカーがオフのとき、この機能は働きません。

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使って左右およびセンタースピーカーの出力を調節する。**

- センター成分の調節をします。

❸ **SOUNDキーを押して、入力表示に戻す。**

主音声／副音声の切り換え
（AACモードおよびDolby Digitalモードのみ）

BSデジタル放送の2ヶ国語放送、音声多重放送の二重音声放送およびDolby Digital のソースが音声多重で記録されているときは、主音声／副音声を切り換えることができます。

❶ **SOUNDキーを押し、“DUAL MONO” が表示されるまで▲/▼キーまたは、MULTI ◁/▷キーを繰り返し押す。**
- CD/DVD、DVD/6CH, VIDEO 2またはVIDEO 3 の入力で、リッスンモードがAACのとき、および入力信号が Dolby Digital の時のみ選べます。

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、MULTI △/▽ キーを使って音声を選ぶ。**
① Main　　：主音声
② Sub　　 ：副音声
③ Main＋Sub：主音声＋副音声
④ Stereo　：主音声が左側、副音声が右側

- モノラルではない二重音声放送は、音声の切り換えは本機ではできません。チューナー側で音声を切り換えてください。
- 調整項目は約20秒間表示されます。

❸ **SOUNDキーを押して、入力表示に戻す。**

96kHz リニアPCMの再生

96kHz リニアPCMに対応しています。96kHz DVDをお聞きになる場合はDSPモード以外のリッスンモードにしてください。

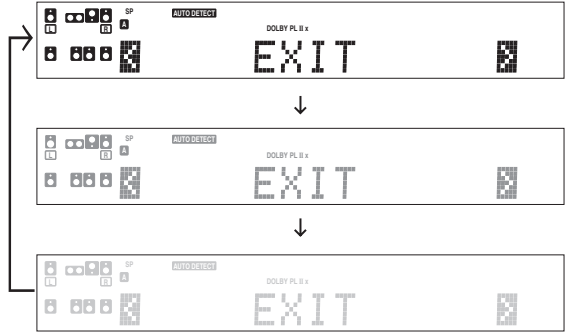
- リッスンモードがDSPモードの時は、リッスンモードは自動的にStereoに切り換わります。

便利な機能

ディスプレイの明るさを調整する

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

リモコンで操作するときは、リモコンのRCV MODEキーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。

DIMMERキーを押すたびに3段階で切り換わります。お好みの明るさにしてください。

おやすみタイマー

設定したタイマー時間が過ぎると、自動的に電源がオフ（スタンバイ）になります。10分単位で最長90分まで設定できます。

リモコンで操作するときは、リモコンのRCV MODEキーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。

SLEEPキーを繰り返し押して、何分後に電源をオフ（スタンバイ）にするかを選ぶ。

- 1回押すごとに10分ずつ増えていきます。

10 → 20 → 30 ..... 70 → 80 → 90 → Cancel → 10 → 20 → ...

“SLEEP” 表示が点灯

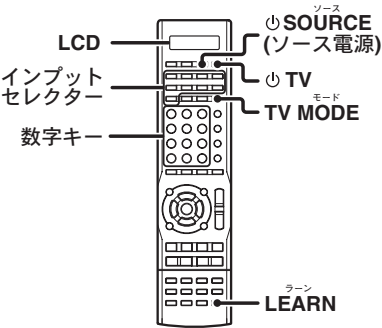
- おやすみタイマー動作中に**SLEEP**キーを押すと、残り時間の確認ができます。
- おやすみタイマーを解除するには、電源をオフ（スタンバイ）にするか、または**SLEEP**キーを繰り返し押しておやすみタイマー表示を消します。

他の機器をリモコンで操作する

リモコンにセットアップコードを登録すれば本機付属のリモコンでも他社製機器の操作が可能になります。

電池が消耗したときのご注意
操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り替えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。

お手持ちの機器のセットアップコードを登録する

リモコンのインプットセレクターキーに、お手持ちの機器のリモコンに対応するセットアップコードを登録します。お手持ちの機器を登録すると、リモコンのインプットセレクターキーで入力ソースを切り換えると本機リモコンで登録した機器を操作できるようになります。
- 録音するときなど、入力ソースは切り換えずに、リモコンのみ登録した機器を操作できるように切り換えることもできます。

1 登録する機器のセットアップコードを探す。
登録する機器のセットアップコードは、セットアップコード表の中から探してください。 →49
例：ケンウッド製のDVDを登録する場合、"0490"、"0534"、"00737"または"0682"がセットアップコードとなります。

2 機器を登録するインプットセレクターキー（DVD/6CH、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、CD/DVD、MD/TAPE、AV AUX、TV MODE）を押す。

各インプットセレクターキーに、登録できる機器は次の機器です。

インプットセレクターキー	登録できる機器	LCD表示部
TUNER	レシーバー操作モードに固定	RCV
DVD/6CH	DVD	DVD
CD/DVD	CD または MD（ケンウッド）	CD
MD/TAPE	CD または MD（ケンウッド）	CD
VIDEO1、AV AUX	ビデオデッキ	VCR
VIDEO 2	登録するには、はじめにインプットセレクターキーの登録機器の割り当てをかえる必要があります。	CABLE
VIDEO 3		DSS
PHONO		PHONO
TV MODE	テレビ(含むビデオ内蔵型テレビ)	TV

- 登録する機器に応じた機器が、本機の入力端子に接続されているか確認してください。
- インプットセレクターキー"VIDEO 2"、"VIDEO 3"は、登録できる機器の割り当てをかえれば、2台目のDVD、CD、ビデオデッキなどを登録することができます。47ページ「インプットセレクターキーに登録できる機器の割り当てをかえる」をご覧ください。

3 リモコンのLCDに📶が2回点滅するまでLEARNキーを押し続け、LEARNキーをはなす。
- 📶が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

4 数字キーを使って機器に登録されている4桁のセットアップコードを入力する。
- 登録がおこなわれたときは📶が2回点滅します。

5 登録した機器が動作するか確認する。
正しく登録が行われたかを確認するには、次の操作をし機器が動作するかを確認します。
登録された機器にリモコンを向け、⏻ SOURCEキー（テレビの場合は⏻ TVキー）を1回押します。正しく登録されていれば、機器の電源がオンまたはオフになります。
カセットデッキの場合は、カセットデッキの電源を入れ、カセットテープを入れて再生等の操作をします。正しく登録されていれば、操作に応じて機器が動作します。
機器が動作しないときは
機器に対応したセットアップコードが複数ある場合は、他のセットアップコードで、手順 3 ～5の登録操作をします。
- 他の機器を登録するときは、手順 1 ～ 5 を繰り返します。
- 登録したセットアップコードを変更するときは、あらためて手順 1 ～ 5の操作をし、セットアップコードを登録し直してください。
- 機器に対応した全てのセットアップコードを登録しても操作できないときは、本機リモコンの学習機能を使用して、機器のリモコンコードを直接リモコンに記録させせることができます。 →48

お知らせ
各セットアップコードは多数の機器で動作するように設計されていますが、機器によっては動作しないものもあります。（また、セットアップコードによっては、利用できる機能のうち、いくつかしか操作できないものもあります。）

お手持ちの機器のセットアップコードを探し登録する

お手持ちの機器のメーカー名を特定できないときやセットアップコード表から見つけ出すことができないとき、次の方法でセットアップコードを探し、登録することができます。
例：テレビのセットアップコードを探すとき

1 TV MODEキーを1回押す。
テレビ以外のセットアップコードを探すときは
TV MODEキーのかわりに登録するインプットセレクターキーを押します。

2 リモコンのLCDに📶が2回点滅するまでLEARNキーを押し続け、LEARNキーをはなす。
- 📶が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

3 数字キーで"9 9 1"を入力する。
- 📶が2回点滅します。

4 登録したいTVに向けリモコンの、⏻ TVキーとTV MODEキーを交互にゆっくりと押し、テレビの電源がオンかオフになったら操作をやめる。
- これらの操作では、リモコンからテレビの電源オン/オフの信号を送信し、コードが合えばテレビの電源はオンまたはオフになります。リモコンに登録されているコードを、一般的な製造メーカーのコードから順次送信します。

テレビ以外のセットアップコードを探すときは
DVD、CD、MD、ビデオデッキのセットアップコードを探すときは、手順1で押したインプットセレクターキーと⏻ SOURCEキーを交互に押し、登録する機器の電源がオンまたはオフになるかを確認します。
カセットデッキのセットアップコードを探すときは、機器の電源を入れ、テープを入れた状態で、手順1で押したインプットセレクターキー（MD/TAPE）と再生キーなどを交互に押し、登録する機器が動作するか確認します。

5 LEARNキーを1回押すと、コードが確定されインプットセレクターキーに登録されます。
- PHONOキーに登録するには、はじめにインプットセレクターキーの登録機器の割り当てをかえる必要があります。

セットアップコードの確認

インプットセレクターキーに登録した4桁のセットアップコードを確認することができます。

1 ***機器を登録したインプットセレクターキーを押す。***

2 ***リモコンのLCDにが2回点滅するまでLEARN(ラーン)キーを押し続け、LEARN(ラーン)キーをはなす。***

- が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

3 ***数字キーで"990"を入力する。***

- が2回点滅します。

4 ***数字キー"1"を押します。***

4桁のコードの最初の桁の数字と同じ回数だけが点滅します。登録されているセットアップコードが"1338"の場合、ここでは1回が点滅します。コードの数字が"0"のときは、は点滅しません。

5 ***手順4と同様に数字キー"2"、"3"、"4"と順番に押し、それぞれの点滅回数を読み取りセットアップコードの各桁の数字を確認します。***

インプットセレクターキーに登録できる機器の割り当てをかえる

各インプットセレクターキーには、セットアップコードを入力して登録可能な機器があらかじめ割り当てられていますが、割り当てを変更することができます。

例えば、初期状態ではインプットセレクター**DVD/6CH**キーはDVDプレーヤーが登録できますが、**CD/DVD**キーに**DVD/6CH**キーと同様にDVDプレーヤーを登録するには次のようにキーの置き換え操作(インプットセレクターキーに登録可能な機器の変更)をします。

1 ***リモコンのLCDにが2回点滅するまでLEARN(ラーン)キーを押し続け、LEARN(ラーン)キーをはなす。***

- が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

2 ***数字キーで"992"を入力する。***

が2回点滅します。

3 ***DVD/6CHキーを1回押し、CD/DVDキーを1回押します。***

が2回点滅し、**DVD/6CH**キー ともに**CD/DVD**キーにもDVDプレーヤーを登録することができるようになります。使用する機器に応じたセットアップコードを登録してください。

手順3で押すキーを置き換えることにより、インプットセレクターキーに登録できる機器をいろいろな組み合わせでかえることができます。例えば、インプットセレクター"A"キーに"B"キーと同じ機器を登録できるようにキーの置き換えをするときは、数字キー"992"の次に"B"キー、"A"キーの順にキーを押します。

- インプットセレクターキーとお手持ちの機器の関連づけの組み合わせについては、前ページの表を参照してください。
- キーの割り当てを元にもどすには、"992"の次にもどすインプットセレクターキーを2回押します。

キーの置き換えとキーを押す順番の例

VIDEO(ビデオ) 2キーにビデオデッキを登録する

VIDEO 2をVIDEO 1キーにする　"992" ➡ "VIDEO 1" ➡ "VIDEO 2"

元にもどす

VIDEO 2をVIDEO2キーにもどす　"992" ➡ "VIDEO 2" ➡ "VIDEO 2"

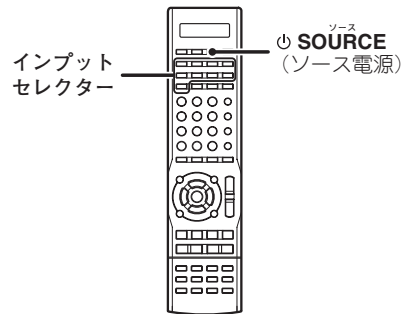
VIDEO(ビデオ) 3キーにDVDプレーヤーを登録する

VIDEO 3をDVD/6CHキーにする　"992" ➡ "DVD/6CH" ➡ "VIDEO 3"

元にもどす

VIDEO 3をVIDEO 3キーにもどす　"992" ➡ "VIDEO 3" ➡ "VIDEO 3"

他の機器を操作する

リモコンのインプットセレクターキーに登録した機器は、本機のリモコンで操作することができます。

1 ***インプットセレクターキーを押して操作したい機器を選ぶ。***

キーを押すと本機リモコンで登録した機器の操作ができるようになります。本機の入力も切り換わります。

本機の入力は切り換えず、リモコンのみ登録した機器を操作できるようにするには、インプットセレクターキーを3秒以上押し続けます。

- リモコンを本機の操作に戻すには、**RCV(レシーバー) MODE(モード)** キーを押します。

2 ***機器の電源をオンにする。***

- リモコンに登録したDVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、ビデオデッキは、本機リモコンの ⏻ **SOURCE(ソース)**キーを押すと電源をオンにできます。
- リモコンに登録したテレビは、本機リモコンの ⏻ **TV(テレビ)** キーを押すと電源をオンにできます。

3 ***操作するキーを押す。***

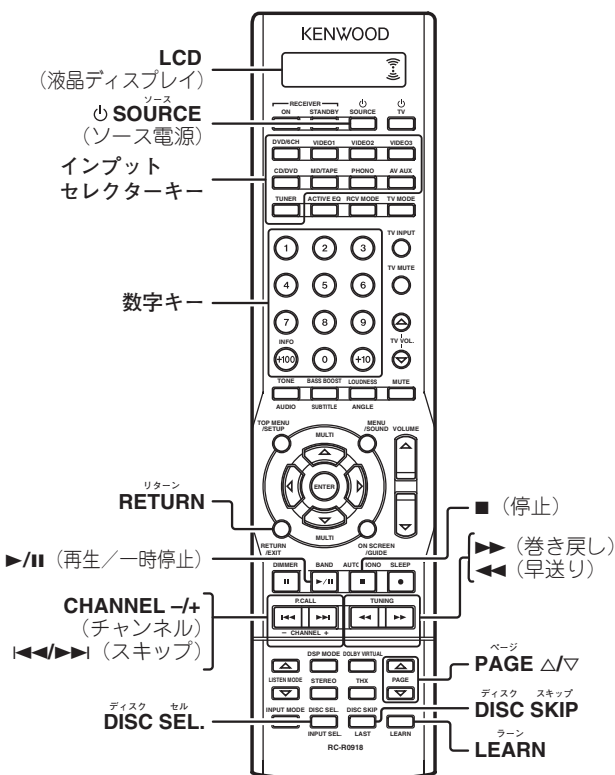
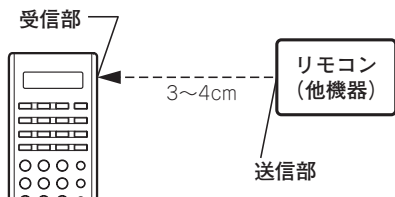
- 各機器で使用できるキーは、53〜55ページをご覧ください。

他の機器のリモコンコードを記憶させる

他の機器のリモコンコードを本機リモコンに直接記憶させることにより、セットアップコード表にない機器を操作したり、キー機能を追加記憶させて操作することができます。

お知らせ
機器によっては、記憶できない場合もあります。

キーに登録する

下図のキーにリモコンコードを記憶させることができます。

1 記憶させたい機器のリモコンの赤外線送信部を、本機リモコンの赤外線受信部に向ける。

2 リモコンのLCDに が2回点滅するまでLEARNキーを押し続け、LEARNキーをはなす。

- が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

3 数字キーで"9 7 5"を入力する。

4 本機リモコンの登録したい機器に対応するインプットセレクターキー(DVD/6CH、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、CD/DVD、MD/TAPE、AV AUX、PHONO、TV MODE)のいずれかを選択する。

- TUNERキーへは、登録できません。

5 本機リモコンの記憶させたいキーを押す。

- リモコンのLCD(液晶ディスプレイ)に"LEARN"と が表示されます。

6 本機リモコンに記憶させたい他の機器のリモコンのキーを押す。

リモコンコードが本機のリモコンに送信されます。リモコンコードの記憶が終了すると"OK"が表示されます。

- リモコンコードが記憶できない状態が何回か続くと"ERROR"が表示されます。この場合は手順2〜6の操作をやり直してください。

7 同じリモコンの他のキーを記憶させるときは、手順5〜6を繰り返す。
別のリモコンのキーを記憶させるときは、手順4〜6を繰り返す。

8 が2回点滅するまでLEARNキーを押し続け、LEARNキーをはなし、LEARNモードを終了する。

記憶させた機能を消去するときは

本機リモコンに記憶させたリモコンコードを、キーごとに消去することができます。

1. リモコンのLCDに が2回点滅するまでLEARNキーを押し続け、LEARNキーをはなす。
   - が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。
2. 数字キーで"9 7 6"を入力する。
3. 消去したい機器に対応するインプットセレクターキーを押します。
4. 消去したいキーを2回押します。
   - が2回点滅し、手順4で押したキーのリモコンコードが消去されます。
   - 他のキーのリモコンコードを消去するには、手順1〜4を繰り返します。

リモコンに登録、記録した内容を全て消去するには

セットアップコードによる機器の登録、記憶させた内容全て消去して、リモコンをお買い上げいただいたときの初期状態に戻すことができます。

1 リモコンのLCDに が2回点滅するまでLEARNキーを押し続け、LEARNキーをはなす。

- が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

2 数字キーで"9 8 1"を入力する。

- が4回点滅し、リモコンに登録、記録した内容が全て消去されます。

セットアップコード表

DVDプレーヤー

メーカー	セットアップコード
Allegro	0869
Apex Digital	0672, 0717, 1004, 0794, 1061, 1056, 0797, 1020, 0796
Blaupunkt	0717
Blue Parade	0571
Broksonic	0695
CineVision	0869
Coby	1086
CyberHome	0816
Daewoo	0784, 0869, 0833, 1172
Denon	0490
DVD2000	0521
Emerson	0591, 0675
Enterprise	0591
Fisher	0670
Funai	0675
Gateway	1158
GE	0522, 0717
Go Video	0744, 0869, 1730, 0715, 0833, 1158, 0783, 1099
Greenhill	0717
Hitachi	0573, 0664
Hiteker	0672
Initial	0717
InterAct	0697
JVC	0558, 0623, 0867
Kenwood	0490, 0534, 0737, 0682
KLH	0717, 1020
Koss	0651
Lasonic	0798
LG	0591, 0869
Lite-On	1058, 1158
Mad Catz	1108
Magnavox	0503, 0539, 0675
Marantz	0539
Memorex	0695
Microsoft	0522
Mintek	0717
Mitsubishi	1521, 0521
Nesa	0717
Onkyo	0503
Oritron	0651
Panasonic	0490, 1762
Pelican Accessories	0731
Philips	0503, 0539, 0646, 0885, 0675
Pioneer	0525, 0571
Polaroid	1061, 1086
Polk Audio	0539
Proscan	0522
Qwestar	0651
RCA	0522, 0571, 0717, 0822
Rio	0869
Rotel	0623
Saitek	0731
Sampo	0752
Samsung	0490, 0573, 0820
Sansui	0695

DVDプレーヤー（つづき）

メーカー	セットアップコード
Sanyo	0873, 0695, 0670
Sharp	0630, 0752
Shinsonic	0533
Sonic Blue	0869, 1099
Sony	0533, 0864, 0772, 1033
Sylvania	0675
Symphonic	0675
Technics	0490
Theta Digital	0571
Thrustmaster	0498
Toshiba	0503, 1154, 0695
Urban Concepts	0503
Xbox	0522
Yamaha	0490, 0539, 0545
Zenith	0503, 0591, 1135, 0869

テレビ

メーカー	セットアップコード
Admiral	0093, 0463
Advent	0761, 1933
Aiko	0092
Akai	0812, 0702, 0030, 0672
Albatron	0843, 0700
America Action	0180
Anam	0180
AOC	0030
Apex Digital	0748, 0765, 1943
Audiovox	0451, 0180, 0092, 0623
Bell & Howell	0154
BenQ	1032
Bradford	0180
Broksonic	0236, 0463, 1935
Candle	0030
Carnivale	0030
Carver	0054
Celebrity	0000
Celera	0765
Changhong	0765
Citizen	0060, 0030, 0092
Clarion	0180
Commercial Solutions	1447, 0047
Contec	0180
Craig	0180
Crosley	0054
Crown	0180
Curtis Mathes	0047, 0054, 0154, 0451, 0093, 0060, 0702, 0030, 0145, 0166
CXC	0180
Daewoo	0451, 1661, 0623, 0672, 0092, 0661
Dell	1080
Denon	0145
Dumont	0017
Durabrand	0463, 0180, 0178, 0171, 1034
Electroband	0000
Emerson	0154, 0236, 0463, 0180, 0178, 0171, 0623, 1963
Envision	0030
ESA	0812, 0171
Fisher	0154
Fujitsu	0683, 0853
Funai	0180, 0171
Futuretech	0180
Gateway	1756, 1755
GE	1447, 0047, 0051, 0451, 0178
Gibralter	0017, 0030
GoldStar	0030, 0178
Grunpy	0180
Haier	1034
Hallmark	0178
Harman/Kardon	0054
Harvard	0180
Havermy	0093
Helios	0865
Hello Kitty	0451

セットアップコード表

テレビ（つづき）

メーカー	セットアップコード
Hisense	0748
Hitachi	1145, 0145
Infinity	0054
Inteq	0017
JBL	0054
JCB	0000
Jensen	0761, 1933
JVC	0053, 1923, 1253, 0731
KEC	0180
Kenwood	0030
KLH	0765
KTV	0180, 0030
LG	0178, 0700, 1934, 0856
LXI	0047, 0054, 0154, 0156, 0178
Magnavox	1454, 0054, 0030, 0706
Marantz	0054, 0030, 0704
Matsushita	0250
Maxent	1755
Megapower	0700
Megatron	0178, 0145
Memorex	0154, 0463, 0150, 0178
MGA	0150, 0030, 0178
Midland	0047, 0017, 0051
Mitsubishi	0093, 1250, 0150, 0178
Monivision	0843, 0700
Motorola	0093
MTC	0060, 0030
Multitech	0180
NAD	0156, 0178
NEC	0030, 1704
Nikko	0030, 0178, 0092
Norcent	0748, 0824
NTC	0092
Onwa	0180
Optimus	0154, 0250, 0166
Optoma	0887
Optonica	0093
Orion	0236, 0463
Panasonic	0250, 0051, 1946, 1941, 1947
Penney	0047, 0156, 0051, 0060, 0030, 0178
Philco	0054, 0030
Philips	1454, 0054, 0690, 1961
Pilot	0030
Pioneer	0166, 0679
Portland	0092
Prima	0761, 1933
Princeton	0700
Prism	0051
Proscan	1447, 0047
Proton	0178
Pulsar	0017
Quasar	0250, 0051
RadioShack	0047, 0154, 0180, 0030, 0178

テレビ（つづき）

メーカー	セットアップコード
RCA	1447, 0047, 0679, 1948, 0090, 1547, 1953
Realistic	0154, 0180, 0030, 0178
Runco	0017, 0030
Sampo	0030, 1755
Samsung	0060, 0812, 0702, 0030, 0178, 1959, 1060
Sansui	0463, 1935
Sanyo	0154
Scotch	0178
Scott	0236, 0180, 0178
Sears	0047, 0054, 0154, 0156, 0178, 0171
Sharp	0093
Sheng Chia	0093
Sony	0000, 1925
Soundesign	0180, 0178
Squareview	0171
SSS	0180
Starlite	0180
Studio Experience	0843
Supreme	0000
SVA	0748, 0865, 0872
Sylvania	0054, 0030, 0171, 1963
Symphonic	0180, 0171
Tandy	0093
Tatung	1756
Technics	0250, 0051
Techwood	0051
Teknika	0054, 0180, 0150, 0060, 0092
Telefunken	0702
TMK	0178
TNCi	0017
Toshiba	0154, 1256, 0156, 0060, 1356, 1936, 1935, 1704, 1945
TVS	0463
V Inc.	1756, 0885
Vector Research	0030
Victor	0053
Vidikron	0054
Vidtech	0178
Viewsonic	1755, 0885
Wards	0054, 0030, 0178
Waycon	0156
Westinghouse	0889
White Westinghouse	0463, 0623
Yamaha	0030
Zenith	0017, 0463, 0178, 0092

ビデオ内蔵型テレビ［TV］

メーカー	セットアップコード
America Action	0180
Audiovox	0180
Emerson	0236
JVC	1923
LG	1934
Samsung	1959
Sony	1925
Toshiba	1936

ビデオ内蔵型テレビ［TV］

メーカー	セットアップコード
Advent	1933
Apex Digital	1943
Broksonic	1935
Emerson	1963
Jensen	1933
Panasonic	1941
Philips	1961
Prima	1933
RCA	1948
Sansui	1935
Sylvania	0171, 1963
Toshiba	1935

HDTV［TV］

メーカー	セットアップコード
Mitsubishi	0150
Panasonic	0250
Pioneer	0679
RCA	1447
Samsung	0812, 0702
Toshiba	1256

セットアップコード表

衛星（BS/CS）チューナー［DSS］

メーカー	セットアップコード
AlphaStar	0772
Chaparral	0216
Crossdigital	1109
DirecTV	0392, 0566, 0639, 1639, 1142, 0247, 0749, 1749, 0724, 0819, 1856, 1076, 1109, 0099, 1108, 1414, 1640, 1442
Dish Network System	1005, 0775, 1775
Dishpro	1005, 0775, 1775
Echostar	1005, 0775, 1775
Expressvu	0775, 1775
GE	0566
General Instrument	0869
GOI	0775, 1775
Hisense	1535
Hitachi	0819, 1250
HTS	0775, 1775
Hughes Network Systems	1142, 0749, 1749, 1442
I-Lo	1535
JVC	0775, 1775
LG	1414
Magnavox	0724, 0722
Memorex	0724
Mitsubishi	0749
Motorola	0869
Next Level	0869
Panasonic	0247, 0701
Paysat	0724
Philips	1142, 0749, 1749, 0724, 1076, 0722, 0099, 1442, 0856
Proscan	0392, 0566
Proton	1535
RadioShack	0869
RCA	0392, 0566, 0855, 0143
Samsung	1276, 1109, 1108
Sony	0639, 1639, 1640
Star Choice	0869
Tivo	1142, 1442
Toshiba	0749, 1749, 0790, 1285
UltimateTV	1640
Uniden	0724, 0722
US Digital	1535
USDTV	1535
Voom	0869
Zenith	1856, 0856

ケーブルテレビチューナー［CABLE］

メーカー	セットアップコード
ABC	0003, 0008
Americast	0899
Bell South	0899
Clearmaster	0883
ClearMax	0883
Coolmax	0883
Director	0476
General Instrument	0476, 0276, 0003
GoldStar	0144
Hamlin	0009, 0273
Jerrold	0476, 0276, 0003
Memorex	0000
Motorola	0476, 0276, 1376
Multitech	0883
Pace	1877, 0237
Panasonic	0000, 0107
Paragon	0000
Philips	0317, 1305
Pioneer	1877, 0877, 0144, 0533
Pulsar	0000
Quasar	0000
RadioShack	0883
Regal	0279, 0273
Runco	0000
Samsung	0144
Scientific Atlanta	1877, 0877, 0477, 0008
Sony	1006
Starcom	0003
Supercable	0276
Supermax	0883
Torx	0003
Toshiba	0000
Tristar	0883
V2	0883
Viewmaster	0883
Vision	0883
Vortex View	0883
Zenith	0000, 0525, 0899

ビデオ［VCR］

メーカー	セットアップコード
ABS	1972
Admiral	0048, 0209
Adventura	0000
Aiwa	0037, 0000
Alienware	1972
American High	0035
Asha	0240
Audiovox	0037
Beaumark	0240
Bell & Howell	0104
Broksonic	0184, 0121, 0209
Calix	0037
Canon	0035
Carver	0081
Citizen	0037
Craig	0037, 0047, 0240
Curtis Mathes	0060, 0035, 0162
Cybernex	0240
CyberPower	1972
Daewoo	0045
Dell	1972
Denon	0042
DirecTV	0739
Durabrand	0039
Dynatech	0000
Electrohome	0037
Electrophonic	0037
Emerex	0032
Emerson	0037, 0184, 0000, 0121, 0043, 0209
Fisher	0047, 0104
Fuji	0035, 0033
Funai	0000
Garrard	0000
Gateway	1972
GE	0060, 0035, 0240
GoldStar	0037
Gradiente	0000
Harley Davidson	0000
Harman/Kardon	0081
Hewlett Packard	1972
HI-Q	0047
Hitachi	0000, 0042
Howard Computers	1972
HP	1972
Hughes Network Systems	0042, 0739
iBUYPOWER	1972
JVC	0067
KEC	0037
Kenwood	0067
Kodak	0035, 0037
Lloyd's	0000
LXI	0037
Magnavox	0035, 0039, 0081, 0000
Magnin	0240
Marantz	0035, 0081
Marta	0037
Matsushita	0035, 0162
Media Center PC	1972
MEI	0035

セットアップコード表

ビデオ［VCR］（つづき）

メーカー	セットアップコード
Memorex	0035, 0162, 0037, 0048, 0039, 0047, 0240, 0000, 0104, 0209
MGA	0240, 0043
MGN Technology	0240
Microsoft	1972
Mind	1972
Minolta	0042
Mitsubishi	0067, 0043
Motorola	0035, 0048
MTC	0240, 0000
Multitech	0000
NEC	0104, 0067
Nikko	0037
Noblex	0240
Northgate	1972
Olympus	0035
Optimus	1062, 0162, 0037, 0048, 0104
Orion	0184, 0209
Panasonic	1062, 0035, 0162, 0616, 0225
Penney	0035, 0037, 0240, 0042
Pentax	0042
Philco	0035
Philips	0035, 0081, 0739, 0618
Pilot	0037
Pioneer	0067
Polk Audio	0081
Profitronic	0240
Proscan	0060
Pulsar	0039
Quasar	0035, 0162
RadioShack	0000
Radix	0037
Randex	0037
RCA	0060, 0240, 0042
Realistic	0035, 0037, 0048, 0047, 0000, 0104
ReplayTV	0616
Runco	0039
Samsung	0240, 0045
Sanky	0048, 0039
Sansui	0000, 0067, 0209
Sanyo	0047, 0240, 0104
Scott	0184, 0045, 0121, 0043
Sears	0035, 0037, 0047, 0000, 0042, 0104
Sharp	0048
Shogun	0240
Sonic Blue	0616
Sony	0035, 0032, 0033, 0000, 1972, 0636
STS	0042
Sylvania	0035, 0081, 0000, 0043
Symphonic	0000
Systemax	1972
Tagar Systems	1972
Teac	0000

ビデオ［VCR］（つづき）

メーカー	セットアップコード
Technics	0035, 0162
Teknika	0035, 0037, 0000
Thomas	0000
Tivo	0618, 1503, 0739, 0636
TMK	0240
Toshiba	0045, 0043, 1503, 1972
Totevision	0037, 0240
Touch	1972
Unitech	0240
Vector	0045
Video Concepts	0045
Videomagic	0037
Videosonic	0240
Viewsonic	1972
Villain	0000
Wards	0060, 0035, 0048, 0047, 0081, 0240, 0000, 0042
White Westinghouse	0209
XR-1000	0035, 0000
Zenith	0039, 0033, 0000, 0209
ZT Group	1972

ハードディスクレコーダー［VCR］

メーカー	セットアップコード
ABS	1972
Alienware	1972
CyberPower	1972
Dell	1972
Gateway	1972
Hewlett Packard	1972
Howard Computers	1972
HP	1972
iBUYPOWER	1972
Media Center PC	1972
Microsoft	1972
Mind	1972
Northgate	1972
Panasonic	0616
Philips	0618, 0739
ReplayTV	0616
Sonic Blue	0616
Sony	1972, 0636
Systemax	1972
Tagar Systems	1972
Tivo	0739, 0636, 0618
Toshiba	1972
Touch	1972
Viewsonic	1972
ZT Group	1972

CDプレーヤー

メーカー	セットアップコード
Kenwood	1338, 1339, 0681, 0826, 0028, 0037, 0340, 0859, 0339, 0677, 0858, 0190, 0523, 1490
Optimus	0037
Sharp	0037

MDレコーダー［CD］

メーカー	セットアップコード
Kenwood	1339, 0681, 0826

ビデオアクセサリー［CABLE］

メーカー	セットアップコード
Macro Image Technology	1383
Motorola	1363
MyHD	1383
Panasonic	1120
Pioneer	1010
Samsung	1490
Sensory Science	1126
Sharp	1010
Viewsonic	1329

DVDプレーヤー、テレビ操作

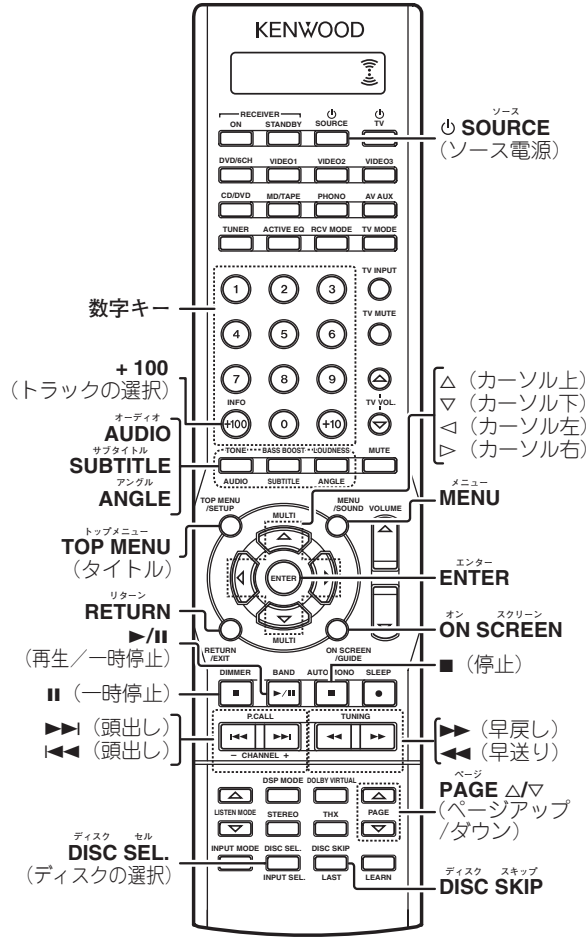
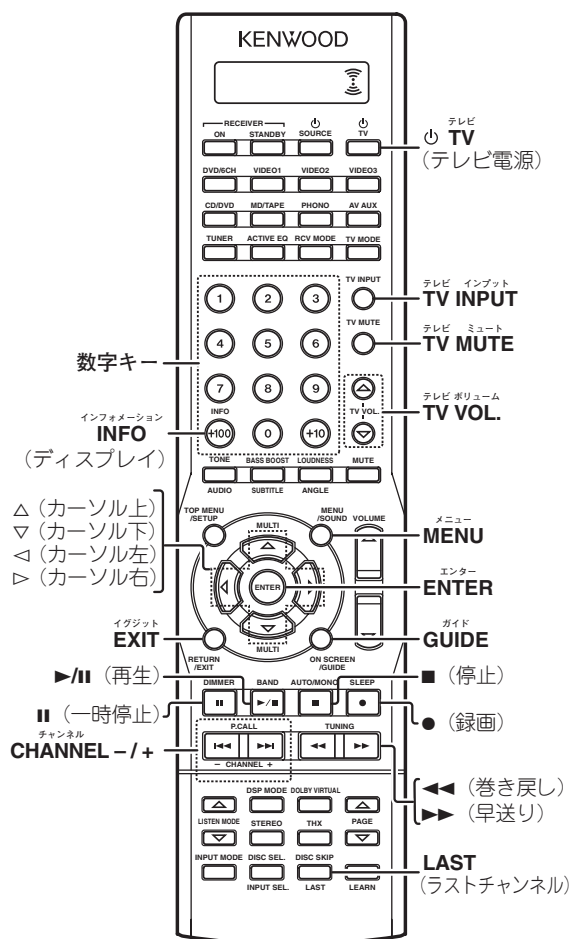
各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

❶ 入力するソースを選ぶ。
❷ 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。
以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかり押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。
- キーの説明は代表的な機器についてのものです。

本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 →46

DVDプレーヤー操作キー

⏻ SOURCE（ソース電源）
数字キー
+ 100（トラックの選択）
AUDIO
SUBTITLE
ANGLE
△（カーソル上）
▽（カーソル下）
◁（カーソル左）
▷（カーソル右）
MENU
TOP MENU（タイトル）
ENTER
RETURN
ON SCREEN
►/❚❚（再生／一時停止）
■（停止）
❚❚（一時停止）
►►❙（頭出し）
❙◄◄（頭出し）
►►（早戻し）
◄◄（早送り）
PAGE △/▽（ページアップ/ダウン）
DISC SEL.（ディスクの選択）
DISC SKIP

テレビ操作キー（含むビデオ内蔵型テレビ）

衛星（BS/CS）チューナー、ケーブルチューナー、ビデオ操作

各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

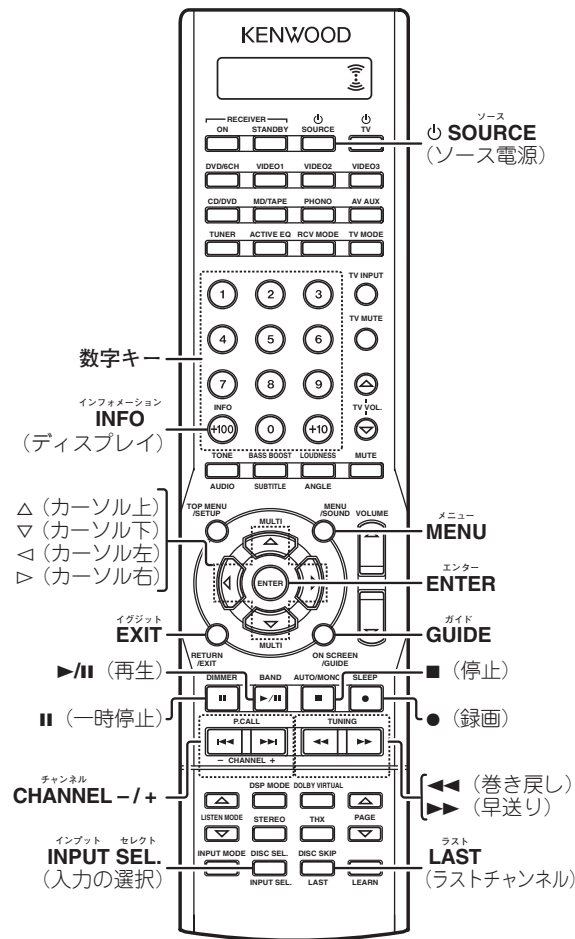
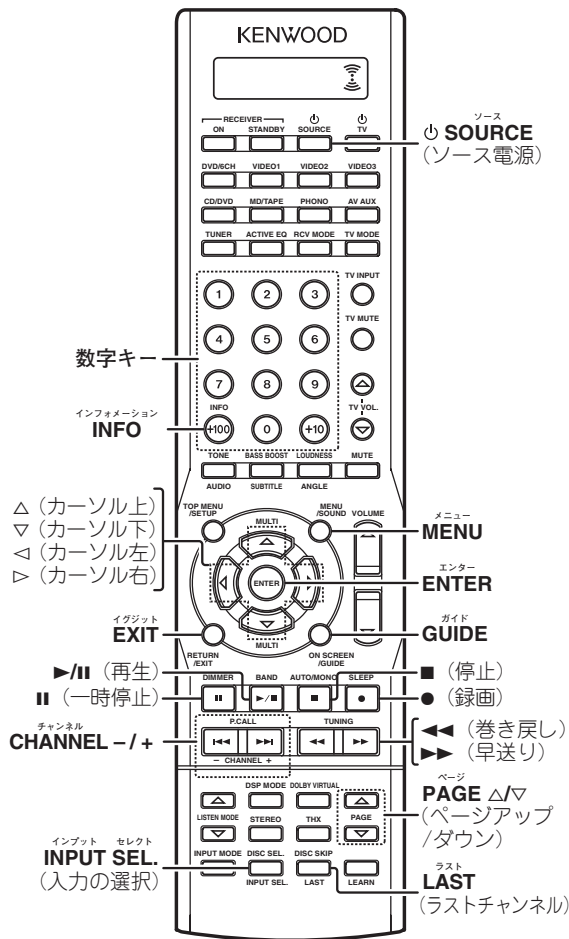
❶ 入力するソースを選ぶ。
❷ 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。
以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかり押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。
- キーの説明は代表的な機器についてのものです。

本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 →46

衛星（BS/CS）チューナー操作キー
ケーブルチューナー操作キー

⏻ SOURCE（ソース電源）
数字キー
INFO
△（カーソル上）
▽（カーソル下）
◁（カーソル左）
▷（カーソル右）
MENU
ENTER
EXIT
GUIDE
►/II（再生）
II（一時停止）
■（停止）
●（録画）
CHANNEL – / +
◄◄（巻き戻し）
►►（早送り）
PAGE △/▽（ページアップ/ダウン）
INPUT SEL.（入力の選択）
LAST（ラストチャンネル）

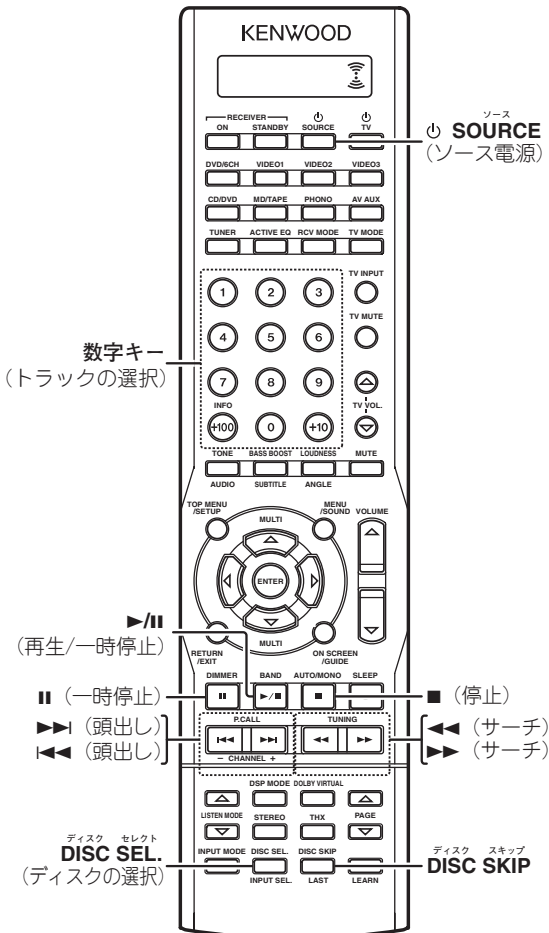
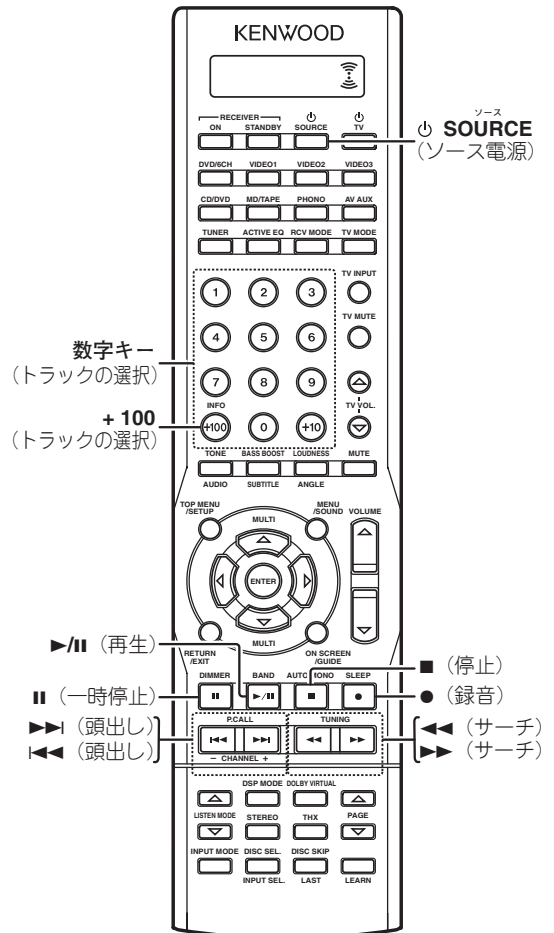
ビデオ操作キー

CDプレーヤー、MDレコーダー操作

各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

❶ 入力するソースを選ぶ。
❷ 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。
以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかり押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。
- キーの説明は代表的な機器についてのものです。

本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 →46

CDプレーヤー操作キー

MDレコーダー操作キー

故障かな?と思ったら

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

電源プラグをコンセントに差し込んだままで、POWER ON/OFFキーをオフにして、⏻(オン/スタンバイ)キーを押しながら、POWER ON/OFFキーをオンにする。

●リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●MUTEがオンになっている。 ●スピーカースイッチがオフになっている。 ●ヘッドホンが差し込まれている。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。→19 ●適当な音量にする。→31 ●MUTEを解除にする。→33 ●スピーカースイッチをオンにする。→31 ●ヘッドホンを抜く。→33
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。	●主電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度 電源を入れる。
いずれかのスピーカーから音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●スピーカーが正しく設定されていない。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。→19 ●「サラウンド再生の準備をする」をみて正しく設定し直す。→23
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない、または音が小さい。	●サラウンドスピーカー、センタースピーカーが接続されていない。 ●スピーカーが正しく設定されていない。 ●サラウンドモードになっていない。 ●サラウンドレベルおよびセンターレベルが最小になっている。	●「スピーカーの接続」を見て正しく接続し直す。→19 ●「サラウンド再生の準備をする」をみて正しく設定し直す。→23 ●サラウンドモードにする。 ●テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。→27
入力切換キーをPHONOにするとブーンという音が出る。	●オーディオコードがプレーヤーのPHONO端子にしっかりと差し込まれていない。 ●プレーヤーの信号用アース線が接続されていない。	●オーディオコードをPHONO端子にしっかりと差し込む。 ●信号用アース線を背面の⏚マークの端子に接続する。
DVDプレーヤーでドルビーデジタルのソースの再生を始めると最初の音が切れる。	●DVDプレーヤーの種類によって、いろいろな原因があります。	●インプットモードをデジタルマニュアルにしてからドルビーデジタルのソースを再生する。→12
DVDを再生しても、音が出ない。	●インプットモードがデジタルマニュアルに設定されている。	●INPUT MODEキーを押して、デジタルオートを選ぶ。→12
ビデオ入力からの録画ができない。	●コピープロテクトがかかっている。	●コピープロテクトがかかっているソースは録画できません。
デジタル放送のAACマルチチャンネル音声放送がマルチチャンネル音声で再生できない。	●AAC信号が入力されていない。	●デジタルチューナーのデジタル出力の設定をAAC出力にする。
デジタル放送の音声切り換えができない。	●放送によっては音声は本機では切り換えることができません。	●デジタルチューナー側で音声を切り換える。
Exx : XXXのような表示が出る。	●AUTO SETUPのキャリブレーション中に何らかの不具合が検出された。	●“エラーメッセージについて”、“ワーニングメッセージについて”をごらんください。→25

チューナー部

症　状	原　因	処　置
放送局が受信できない。	●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。	●アンテナを接続する。 ➝22 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。 ➝35
雑音が入る。	●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。	●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。

リモコン操作

症　状	原　因	処　置
リモコンを使って、選べない入力がある。	●各入力に対して、セットアップ(IR)コードが登録されていない。	●それぞれの入力に対するセットアップコードまたは入力表示用のコードを登録する。 ➝46
リモコンで操作できない。	●リモコンが違った操作モードに設定されている。 ●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●再生しようとする機器に、ディスクやテープが入っていない。 ●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。 ●リモコンが操作をしようとしている装置の操作モードになっていない。	●RCV(レシーバー) MODE(モード)キーを押して、適切な操作モードを選ぶ。 ●新しい電池と交換する。 ●操作範囲内で操作する。 ➝8 ●再生しようとする機器に、ディスクやテープを入れる。 ●録音が終わるまで待つ。 ●いずれかのインプットセレクターキーか ⏻ SOURCE(ソース)キーを押して、操作したい機器の操作モードにする。 ➝46

オーディオ部

ステレオ モード

定格出力（JEITA）（20 Hz 〜 20 kHz、0.09%、6 Ω）
...... 100 W + 100 W

実用最大出力 ...... 150 W + 150 W（JEITA、6 Ω）

サラウンドモード（1ch動作時）

実用最大出力

FRONT ...... 150 W + 150 W（1 kHz、10%、6 Ω）
CENTER ...... 150 W（1 kHz、10%、6 Ω）
SURROUND ...... 150 W + 150 W（1 kHz、10%、6 Ω）
SURROUND BACK ...... 150 W + 150 W（1 kHz、10%、6 Ω）

最大出力

FRONT ...... 100 W + 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
CENTER ...... 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
SURROUND ...... 100 W + 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
SURROUND BACK ...... 100 W + 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）

全高調波歪率 ...... 0.009%（1 kHz、50 W、6 Ω）

周波数特性

CD/DVD ...... 10 Hz 〜 100 kHz, + 0 dB 〜 -3 dB

イコライザ偏差 ...... 40 Hz 〜 20 kHz, +1.5 dB 〜 -3 dB

最大許容入力電圧

PHONO（MM） ...... 40 mV、1%、1kHz

SN比（IHF'66）

PHONO（MM） ...... 75 dB (JEITA)
CD/DVD ...... 95 dB (JEITA)

入力端子（感度/インピーダンス）

PHONO（MM） ...... 4 mV / 47 kΩ
CD/DVD、MD/TAPE、AV AUX、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD/6CH
...... 300 mV / 47 kΩ

出力端子（レベル/インピーダンス）

REC OUT (MD/TAPE) ...... 300 mV / 1 kΩ
PRE OUT（FRONT） ...... 1 V / 500 Ω
PRE OUT（CENTER） ...... 1 V / 500 Ω
PRE OUT（SURROUND） ...... 1 V / 500 Ω
PRE OUT（SURROUND BACK） ...... 1 V / 500 Ω
PRE OUT（SUBWOOFER） ...... 1 V / 500 Ω

トーン コントロール特性

BASS ...... ±10 dB（100 Hz）
TREBLE ...... ±10 dB（10 kHz）

ラウドネス コントロール特性

VOLUME -30 dBレベル ...... +6 dB（100 Hz）

デジタル部

対応サンプリング周波数 ...... 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz

入力端子（感度／インピーダンス／波長）

オプチカル ...... −15 dBm〜−24 dBm、660 nm ±30 nm
コアキシャル ...... 0.5 Vp-p／75 Ω

出力端子（感度／インピーダンス／波長）

オプチカル ...... −21 dBm〜−15 dBm、660 nm ±30 nm

ビデオ部

入力端子／出力端子（感度／インピーダンス）

VIDEO（コンポジット） ...... 1 Vp-p / 75 Ω

S VIDEO（感度/インピーダンス）

S VIDEO（Y-信号） ...... 1 Vp-p / 75 Ω
S VIDEO（C-信号） ...... 0.286 Vp-p / 75 Ω

COMPONENT VIDEO（感度／インピーダンス）

COMPONENT VIDEO（Y-信号） ...... 1 Vp-p / 75 Ω
COMPONENT VIDEO（CR/CB-信号） ...... 0.7 Vp-p / 75 Ω

FM チューナー部

受信周波数範囲 ...... 76 MHz 〜 90 MHz
アンテナインピーダンス ...... 75 Ω 不平衡
実用感度（モノラル75 Ω） ...... 1.6 μV (75 Ω) 15.2 dBf
（75 kHz DEV. SINAD 30 dB）

高調波ひずみ率（1 kHz）

モノラル ...... 0.3 %
ステレオ ...... 0.7 %

SN比

モノラル ...... 75 dB（65 dBf 入力時）
ステレオ ...... 68 dB（65 dBf 入力時）

実効選択度（±400 kHz） ...... 50 dB
ステレオセパレーション（1 kHz） ...... 36 dB
周波数特性（30 Hz〜15 kHz） ...... + 0.5 dB 〜 -3.0 dB

AM チューナー部

受信周波数範囲 ...... 531 kHz 〜 1,602 kHz
実用感度（30%mod.、S/N 20 dB） ...... 18 μV (600 μV/m)

SN比（30%mod.、1 mV 入力時）

モノラル ...... 48 dB

電源部・その他

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示） ...... 250 W
待機時消費電力 ...... 0.5 W以下
ACアウトレット ...... 連動、最大90 W
最大外形寸法 ...... 幅：440 mm
高さ：166 mm
奥行：396 mm
重量（正味） ...... 12.1 kg

本製品は「JIS C61000-3-2適合品」です。

ご注意

1. これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約1日ほど経過すると、以下の内容が初期化されますのでご注意ください。

- 電源オン／オフの状態
- 入力切換の設定
- スピーカーオン／オフ
- ボリュームの値
- BASS、TREBLE、INPUTレベル
- TONE オン／オフ
- LOUDNESS オン／オフ
- DIMMERレベル
- リッスンモードの設定
- セットアップの内容
- インプットモードの設定
- サウンドモードの設定
- 受信バンド
- 周波数
- プリセット放送局
- 受信方法
- THXモード
- ACTIVE EQモード
- GAMEモードの設定
- AAC音声設定

保証とアフターサービス（よくお読みください）

保証書（別途添付）

製品には保証書が（別途）添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。
（お問い合わせ先は、「ケンウッドサービス網」をご覧ください。）

補修用性能部品の保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼される時は

「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理／持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号（Serial No.）
- お買い上げ年月日
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- ご住所（ご近所の目印等も併せてお知らせください）
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

保証期間が過ぎている時は

保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み

（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）

- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話（　　　　）　　　-

ケンウッド サービス網

2005年7月現在

製品に対するお問合せ、アフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

名称	〒	住所	電話
北海道			
札幌サービスセンター	〒007-0834	札幌市東区北34条東14-1-23	☎(011) 743-7740
東北			
仙台サービスセンター	〒984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12(サンライズ大和)	☎(022) 284-1171
盛岡サービスステーション	〒020-0124	盛岡市厨川4-5-11	☎(019) 646-2311
関東・信越			
さいたまサービスセンター	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-311-1(加茂宮ビル1F)	☎(048) 664-3611
千葉サービスセンター	〒277-0081	柏市富里1-2-1	☎(04) 7163-1441
横浜サービスセンター	〒226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎(045) 939-6242
東京サービスステーション	〒169-0073	新宿区百人町2-16-15(MYビル1F)	☎(03) 3363-1650
新潟サービスステーション	〒950-0923	新潟市姥ケ山1-5-37	☎(025) 287-7736
中部・甲州			
名古屋サービスセンター	〒462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	☎(052) 917-2550
静岡サービスステーション	〒420-0816	静岡市沓谷5-61-1	☎(054) 262-8700
松本サービスステーション	〒390-0832	松本市南松本2-7-30(昭和ビル2F)	☎(0263) 26-7331
金沢サービスステーション	〒920-0036	金沢市元菊町21-87(第2濱伍ビル1F)	☎(076) 265-5045
近畿・四国			
大阪サービスセンター	〒532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎(06) 6394-8075
高松サービスステーション	〒760-0068	高松市松島町3-1	☎(087) 835-2413
中国			
広島サービスセンター	〒731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	☎(082) 832-2210
九州			
福岡サービスセンター	〒815-0035	福岡市南区向野2-8-18	☎(092) 551-9755
鹿児島サービスステーション	〒890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10(パレス鴨池1F)	☎(099) 251-6347
沖縄サービスステーション	〒901-2132	浦添市伊祖1-5-2	☎(098) 874-9010

カスタマーサポートセンター　〒226-8525　横浜市緑区白山1-16-2
☎ (0570) 010-114（ナビダイヤル）　携帯電話・PHSでのご利用は ☎ (045) 933-5133
FAX (045) 933-5553

- ケンウッドサービス窓口　営業時間のご案内
  月曜日～金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前10時から午後6時まで
- カスタマーサポートセンター　営業時間のご案内
  月曜日～金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前9時から午後6時まで

（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください）

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

電話（0570）010-114（ナビダイヤル）　携帯電話・PHSでのご利用は (045) 933-5133
FAX（045）933-5553
住所 〒226-8525　横浜市緑区白山 1-16-2

アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、添付の「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。